

令和4年度
旭川市社会教育基本計画
点検・評価報告書（原案）

令和4年（2022年）7月

旭川市教育委員会 社会教育部

目 次

社会教育基本計画の点検・評価について	1
基本目標 1（市民一人一人の主体的な学びの機会の充実）	3
基本目標 2（市民の学びを支える環境の整備）	10
基本目標 3（地域における学びの循環）	16
基本目標 4（市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実）	21
基本目標 5（郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成）	25
学識経験者の意見	29
修正後の報告書	34

社会教育基本計画の点検・評価について

1 点検・評価の目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」とします。）を行い、その結果に関する報告書を作成することとされています。

これを受け社会教育部では、「旭川市社会教育基本計画」に基づき、前年度に実施した事業や取組について点検・評価を行っており、本報告書はその結果をまとめたものです。

学識経験者への意見聴取後、旭川市社会教育委員会議での審議を経て、本報告書と、学校教育部が別途行う「学校教育基本計画」に基づく点検・評価とを併せて、「旭川市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書(案)」としてとりまとめた上で、教育委員会会議で議決の後、市議会へ提出するとともに、公表します。

2 点検・評価の対象

社会教育部が令和3年度に行った事業や取組を対象に、点検・評価を行っています。

3 点検・評価の方法

(1) 「基本目標」と「成果目標」について

「旭川市社会教育基本計画（計画期間：平成28年度～令和9年度）」では、計画に掲げられる5つの「基本目標」ごとに、社会教育行政により「どのような状況を目指したいのか」という点を「成果目標」として設定しています。さらに、この成果目標の達成度を数値的に把握するための「成果指標」を設定しており、これが令和3年度の目標値に達した場合に「達成」、達していない場合に「未達成」として、達成状況を示しています。また「未達成」指標については、前年度の実績値との比較結果を示しています。

(2) 「基本施策」について

「基本施策」では、具体的な事業や取組についてその実績を記述するとともに、一部の事業や取組については、グラフを用いて経年変化の状況を示しています。

(3) 「今後の課題と改善に向けた方向性」について

主な事業や取組について、その課題を整理するとともに、今後の事業改善へ向けた方向性等を、具体的に記述しています。

(参考)「旭川市社会教育基本計画」の体系

社会教育推進基本方針

- 基本理念**
- 主体的に学び、その成果を地域づくりに生かす
 - 地域を知り、学び合いながら、絆を深め、郷土愛を育む

社会教育基本計画

基本目標	成果目標	基本施策	主な取組
基本目標 1 市民一人一人の主体的な学びの機会の充実	成果目標 1 子育て世代や高齢期などの人生における各段階で直面する課題や社会的な課題を解決できるよう、学びに関する情報提供を行うとともに、様々な学びのニーズに応えることができるよう学習機会の充実を図る。	基本施策 1-1 多様なニーズに対応した学習機会、学習情報の提供	主な取組 1-1-1 現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進 主な取組 1-1-2 ライフステージに応じた学習機会の充実 主な取組 1-1-3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実
		基本施策 1-2 子育てをする家庭の教育力の向上	主な取組 1-2-1 親や保護者の育ちを支援する取組の充実 主な取組 1-2-2 親や保護者を孤立させない環境の整備
基本目標 2 市民の学びを支える環境の整備	成果目標 2 社会の変化や新たなニーズに応じた施設運営や本市の特性を生かした事業を展開するなど、市民が学習しやすい環境を整備する。	基本施策 2-1 施設運営や事業展開に工夫を凝らした学習しやすい環境の整備	主な取組 2-1-1 市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備 主な取組 2-1-2 関係機関等との多様な連携による学習環境の整備
		基本施策 3-1 地域における教育力の向上	主な取組 3-1-1 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備 主な取組 3-1-2 地域社会を担う団体や人材の育成支援
基本目標 3 地域における学びの循環	成果目標 3 シニア世代をはじめとした地域の人材を活用し、学習成果を還元する取組を充実させるほか、家庭、地域、学校が連携し、つながりを深めながら学び合える環境を整備する。	基本施策 3-2 家庭、地域、学校の連携の推進	主な取組 3-2-1 家庭、地域、学校の連携による青少年などの活動を支援する取組の充実
		基本施策 4-1 文化芸術活動に関わりを持つ機会の充実と独自性ある取組の充実	主な取組 4-1-1 文化芸術に親しむ機会の充実 主な取組 4-1-2 文化芸術活動への支援
基本目標 4 市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実	成果目標 4 人々が気軽に文化芸術に触れられる取組を進めるとともに、団体等への支援や関連施設を更に活用することにより、文化芸術の振興を図る。	基本施策 5-1 郷土の文化の保存・活用と郷土愛の育成	主な取組 5-1-1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用 主な取組 5-1-2 郷土愛を育むための取組の推進
		基本施策 5-1 郷土の文化の保存・活用と郷土愛の育成	主な取組 5-1-1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用 主な取組 5-1-2 郷土愛を育むための取組の推進

社会教育

基本目標 1 市民一人一人の主体的な学びの機会の充実

【成果目標 1】子育て世代や高齢期などの人生における各段階で直面する課題や社会的な課題を解決できるよう、学びに関する情報提供を行うとともに、様々な学びのニーズに応えることができるよう学習機会の充実を図る。

I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
社会的な課題やライフステージに対応した課題を解決するための講座の受講者数	社会教育課	4,100人	—	未達成	⬇
	公民館事業課	119,273人	30,370人	未達成	⬇
	中央図書館	247人	30人	未達成	⬇
	科学館	54,340人	45,793人	未達成	↔
社会教育課^{*1} 		公民館事業課 			
中央図書館 		科学館 			
成果指標 2		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
社会的な課題やライフステージに対応した課題を解決するための講座への参加者の満足度	公民館事業課	81.9%	74.3%	未達成	↔
成果指標 3		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
まなびネットあさひかわのアクセス件数	社会教育課	141,750件	122,329件	未達成	↔
成果指標 4		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
家庭教育の支援に関する講座への参加者数	公民館事業課	8,186人	1,475人	未達成	⬇

*1 R 2, 3は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から調査未実施

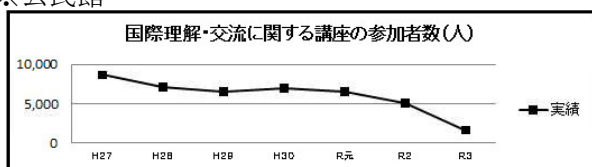
【基本施策 1 - 1 多様なニーズに対応した学習機会、学習情報の提供】

主な取組 1 - 1 - 1 現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進

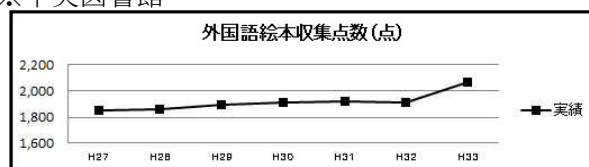
1 国際化に伴う異なる文化・習慣への理解の促進

- ・社会教育課では、生涯学習フェアを開催し、都市交流課と連携して、国際交流員が外国の文化を紹介する講座を実施しました。
- ・公民館では、JICA等と連携して、アフリカでの支援事業やコスタリカの文化や言語に触れる講座を実施し、子どもから高齢者までが国際交流に関心を持つきっかけとなる学習機会を提供しました。
- ・図書館では、様々な言語の外国語絵本の収集・提供と、外国の言語や文化をテーマにした事業の開催により、国際理解を深める機会を提供しました。

※公民館



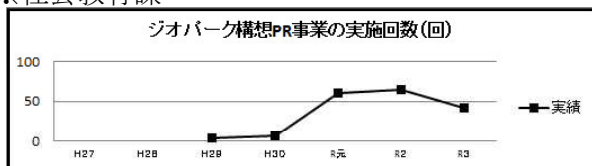
※中央図書館



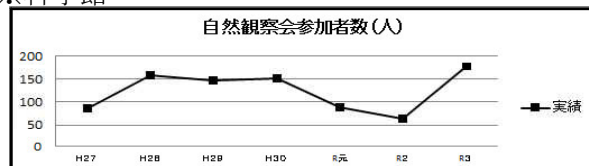
2 身の周りや地球規模での資源・環境問題への理解の促進

- ・社会教育課では、ジオパーク構想の推進を目指し、地域の地質や地形を題材とした小中学校での出前授業や公民館での講座、ツアー等を実施しました。
- ・公民館では、環境アドバイザーや森林管理を担うNPO法人等との連携・協力により、特定外来種の生態から環境破壊を考える講座や食品ロスをなくすための料理講座などSDGsを意識した講座を開催し、資源や環境に関する理解や啓発を図りました。
- ・科学館では、身近な自然の中での活動を通じて自然の不思議さや大切さ等を幅広い年齢層に学んでもらうため、サケ遡上観察会や河原での石拾い、ウチダザリガニ捕獲体験や、常設展示を利用したクイズなどを通して、自然環境や生命の大切さ、大地の成り立ちと人の暮らしを実感する機会を提供しました。

※社会教育課



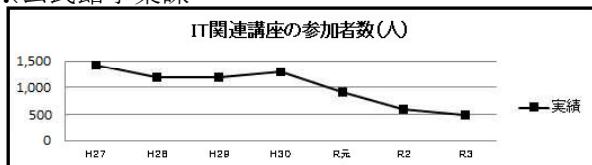
※科学館



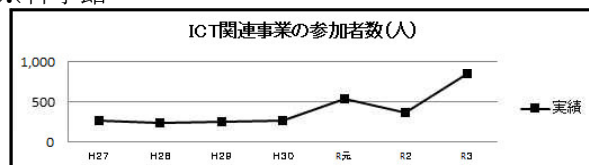
3 情報化に伴うICTの利活用の促進

- ・社会教育課では、市民がインターネットを使用して生涯学習に関する講座やイベント情報、講師情報及び施設情報を得られる生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」を運用し、多様な方法で情報を入手できるようにしました。アクセス件数が年々増加していることから、学習意欲の向上につながっていると考えています。
- ・公民館では、市民がICTを活用できるよう、文書作成等を学ぶパソコン講座や、スマートフォンの使い方を学ぶ講座を実施し、知識や技術を習得するための学習機会を提供しました。
- ・科学館では、ICTを利活用できるよう、青少年が基礎を学ぶ科学館クラブ（パソコン教室）や、基礎から応用までを学ぶプログラミング講座、成人向けのパソコン基礎講座等を開催し、基礎や情報収集の方法を学ぶことで、表現・発信する能力を養う機会を提供しました。

※公民館事業課



※科学館

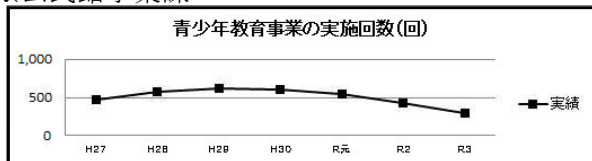


主な取組 1-1-2 ライフステージに応じた学習機会の充実

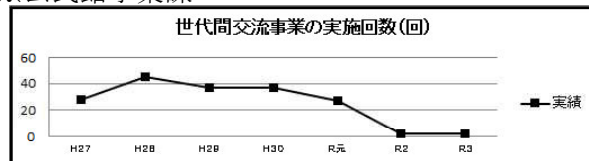
1 幼児、青少年期の生きる力を身に付ける学習機会の提供

- ・彫刻美術館では、「こども彫刻教室」を開催し、小学生が造形活動を通して楽しみながら芸術に親しみ、彫刻に興味を持ってもらう機会を提供しました。
- ・公民館では、自然や地域の特色を取り入れたものづくりや自然体験等の講座を実施したほか、学習支援事業及び子ども食堂への支援や、青少年と高齢者を中心とした世代間交流を行い、青少年が様々な知識や経験を身に付けるとともに、新しい価値観の習得や思いやりの心を育む機会を提供しました。
- ・図書館では、絵本の読み聞かせボランティアとの連携・協力により、絵本の読み聞かせやお楽しみ会を開催し、読書活動により子どもたちが表現力や想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付ける機会を提供しました。
- ・博物館では、郷土への愛着と誇りを育むため、学校等の団体を受け入れており、博物館で体験・学習できるメニューをインターネットで周知し、学習が充実するよう学校などへ働きかけながら、郷土学習の機会を提供しています。

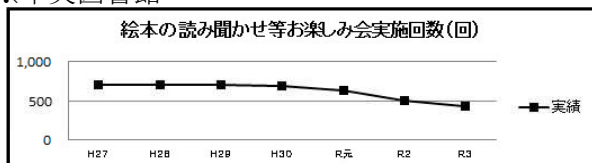
※公民館事業課



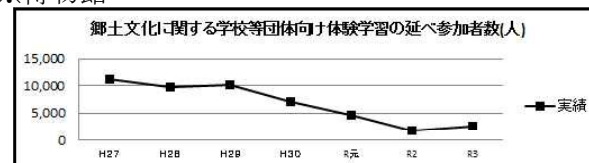
※公民館事業課



※中央図書館



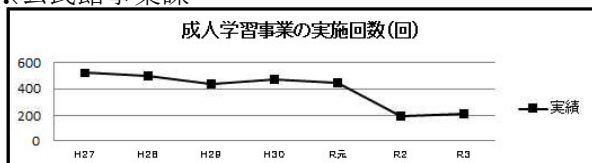
※博物館



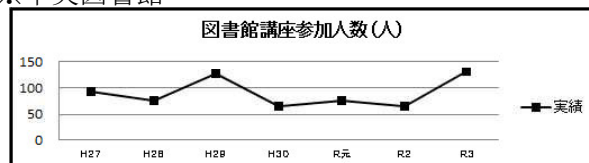
2 成人期のキャリアアップや趣味、教養に関する学習機会の提供

- ・社会教育課では、生涯学習フェアを開催し、市内で活動する団体やサークルの発表の機会をつくとともに、その発表を通じて市民に学習機会を提供しました。
- ・公民館では、地域包括支援センターや市内の大学等と連携するとともに、ボランティアの協力を得ながら、保健・医療・介護・食・ICTに関する学習や消費者トラブルに関する法律知識など多様な分野で趣味や教養に関する講座を実施しました。
- ・図書館では、北海道内の高等教育機関等と連携して様々な講座を開催し、参加者のキャリアアップや趣味、教養に関する学習機会を提供しました。
- ・彫刻美術館では、旭川彫刻フェスタにおいて、市民等で構成される実行委員会を組織し、これまでの活動実績などを紹介する動画コンテンツを制作しました。

※公民館事業課



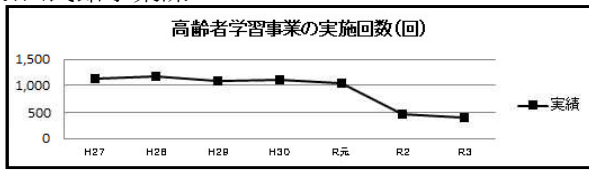
※中央図書館



3 高齢期の生きがいづくりなどに関する学習機会の提供

- ・公民館では、年間カリキュラムに基づき各公民館の百寿大学やシニア大学を中心に、高齢者が社会と関わりを持ちながら豊かに人生を過ごせるよう、高齢者の仲間づくりとともに、一般教養や軽スポーツ等の講座を実施しました。

※公民館事業課

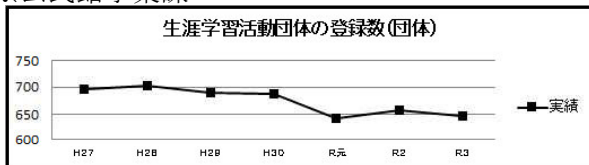


主な取組 1-1-3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実

1 講師情報や活動団体に関する情報の提供

- ・社会教育課では、生涯学習フェアにおいて、市の各部局の行政情報や市民団体の活動報告等、様々な情報発信の機会を提供するとともに、生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」において、講師・指導者や団体の情報を提供しました。また、講師等から提供された家庭教育等に関する具体的な指導プログラムを掲載した「あさひかわ学びの応援講座」を作成し、小中学校や子育て支援センターなどに配布しました。
- ・公民館では、公民館を拠点に生涯学習活動を行う団体の情報を、インターネットで紹介するとともに、館内掲示や公民館だより等の紙媒体で情報発信を行い、市民の学習機会の選択支援と生涯学習活動への参加意欲の喚起を図りました。

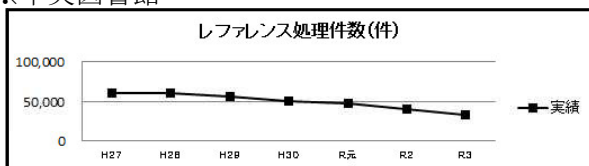
※公民館事業課



2 課題解決を支援する各種情報の提供

- ・社会教育課では、市が行う様々な事務・業務や専門的知識を市職員等が出向いて広く伝え、市民に学習機会を提供する出前講座を「あさひかわ学びの応援講座」に掲載し、インターネットや紙媒体で周知しながら実施し、市民の学習活動を支援しました。
- ・図書館では、市民が学習活動を進める上で必要となる資料の検索・提供等を通じて市民へのレファレンスサービスを行い、図書館でしか提供できない資料や情報による課題解決を支援しました。

※中央図書館



【基本施策 1-2 子育てをする家庭の教育力の向上】

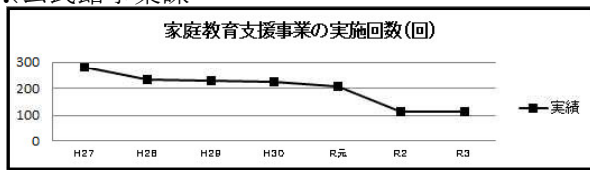
主な取組 1-2-1 親や保護者の育ちを支援する取組の充実

1 家庭教育に関する学習機会の充実

- ・社会教育課では、家庭教育について学ぶ団体が行う自主的な活動への補助金の整備や、地域の講師や団体、企業等の協力を得て保護者が研修会を行おうとする際に具体的なプログラムとして活用できる、「あさひかわ学びの応援講座」を作成しました。

- ・公民館では、農業体験や料理、工作等、親子と一緒に体験する講座を実施し、体験の大切さについて学習する機会や、保護者同士の交流を通して日頃の家庭教育を振り返る機会を提供しました。
- ・図書館では、保護者や子どもにかかわる大人を対象に、絵本の楽しさを伝える方法や読み聞かせの技術等を学習する講座を実施しました。

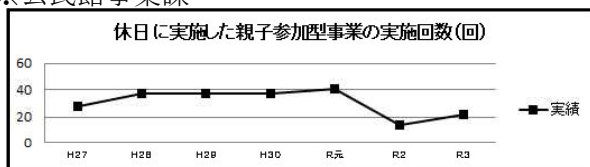
※公民館事業課



2 父親の家庭教育への参加を支援する取組の充実

- ・社会教育課では、PTA連合会へ補助金を交付するとともに、学習プログラムを提供し、連合会が実施する保護者同士の交流や家庭教育への理解を深める活動を継続的に支援しています。
- ・公民館では、親子と一緒に体験する事業を父親も参加しやすい土曜日や日曜日に開催し、ウチダザリガニの捕獲や昆虫採集、農産物の収穫、薪での炊飯等を通して、体験の大切さについて学習する機会を提供しました。

※公民館事業課



主な取組 1-2-2 親や保護者を孤立させない環境の整備

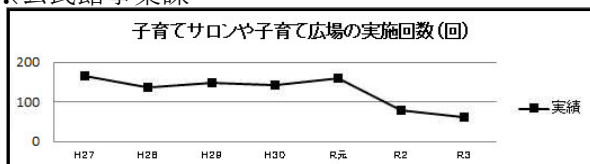
1 交流会やサークル情報等の提供

- ・社会教育課では、旭川市家庭教育支援プロジェクトを通して、市の各部局等で実施している子育てや家庭教育に関する情報を集約した家庭教育・子育て行事等カレンダーを作成し、インターネットでの発信や市有施設等で配布を行い、広く情報提供を行いました。
- ・公民館では、子育てに関する講座や育児サークルの情報をインターネット等で発信し、保護者の交流の機会に関する情報提供を行いました。

2 子育て中の親や保護者のネットワークづくりの支援

- ・公民館では、地域の民生委員児童委員連絡協議会等と連携して、子育てサロンや子育て広場を開設し、子育て中の保護者や妊婦が孤立することがないように相談に応じるほか、保護者同士の交流の機会として、子育てを支援しました。

※公民館事業課



令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年に引き続き、施設の休館や、予定していた事業・イベント等を中止・規模縮小したものがあり、全体を通じて参加者数等は例年より減少していますが、コロナ禍であっても学習機会が失われることのないよう、事業やイベントをオンラインや人数を制限して実施するなど、「3密」を回避した形で開催しました。引き続き、事業の在り方や実施方法を検討し、内容の見直しを行っていきます。

さらに、各事業の実施に当たっては、事業終了時に、目標や目的に見合った事業であったかについて、参加者にアンケートを実施するなど、事業を通じた市民の意識や行動の変容を把握していくとともに、成果目標にある「市民が人生の各段階で直面する課題や社会的な課題を解決できる」かどうかを視点に持ちながら事業の在り方を検討していきます。

<1-1-1 現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進>

- 社会教育課では、ジオパーク構想を推進する各種事業について、市民の学びの幅を広げるため、近隣町や関係団体と連携しながら、活動内容の充実を図っていきます。

生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」の利活用が進むよう、引き続き、広報誌等で周知するほか、SNSを活用するなど、様々な周知方法を検討していきます。

- 公民館では、外国語や異文化の学習を通して国際理解を深め、国際交流に関心を持つきっかけとなるよう、都市交流課や国際交流関係団体など関係機関のノウハウを活用しながら、市民の関心の高いテーマで講座を実施していきます。

資源・環境問題に関する講座は、身近な資源・環境に関するものから、地球規模の環境に関するものまで幅広く実施し、SDGsや持続可能な社会づくりについて考えるきっかけとなるよう、講座内容を検討していきます。

ICT関連講座の需要は高いですが、文書作成等の基本操作が中心となっており、トラブル防止や利用者モラル啓発など現代的課題、オンラインを活用した学習スタイルへの対応も必要であることから、施設内のインターネット環境の整備を進めるとともに、ボランティア講師や生涯学習活動団体などとの連携に努めていきます。

- 図書館では、読書活動による国際理解の推進を図るため、外国語絵本を通して、その国の生活や文化に興味を持ってもらえるよう、様々な言語の外国語絵本の収集を進めるとともに、市内在住の外国人や、ボランティアサークル等と連携しながら、原語と日本語による読み聞かせ会などを開催していきます。
- 科学館では、体験を通して、科学技術や身近な自然科学、SDGs等の学びを深める事業を実施していきます。

<1-1-2 ライフステージに応じた学習機会の充実>

- 社会教育課が実施する生涯学習フェアでは、多様な世代が楽しみながら学習できる体験や学習成果を発表する機会を提供していますが、今後、参加団体等で構成する実行委員会が主体の実施を目指して、フェアの企画立案や運営に関わる仕組みづくりを行います。

- 彫刻美術館の「こども彫刻教室」については、今後も彫刻についての理解を深めてもらうため、単発の講座だけではなく、より効果的な講座の在り方を検討するほか、完成作品を彫刻美術館本館やステーションギャラリーで展示するなどの工夫をしながら、継続的に実施します。また、旭川彫刻フェスタについては、事業の恒常化等が指摘されており、事業の見直しについて実行委員会で検討していきます。

- 公民館における青少年教育や成人学習に関する事業のうち参加者が少ない事業については、より対象者の興味・関心に沿った講座となるよう内容の再検討を行います。

世代間交流事業については、子どもと高齢者等異世代が交流する重要な機会であることから、引き続き、学校などと連携し、内容を見直しながら事業の充実を図ります。

高齢者学習については、健康で豊かな生活を送るための趣味や軽スポーツ等に関する講座の需要が高いことから、今後も高齢者の生きがいつくりや心身の健康維持を図るとともに、その学習

成果を地域に還元する仕組みづくりについて、地域包括支援センターなどの関係機関と連携しながら実施していきます。

- 図書館では、「絵本の読み聞かせ等お楽しみ会」について、参加者増に向けた情報発信の方法を検討するほか、地域等への絵本の読み聞かせボランティアの派遣など、図書館以外の場でも子どもたちが本に親しむ機会を提供していきます。

成人向けの講座は、図書館の利用促進のほか、参加者のキャリアアップや趣味、教養に関する学習機会となるよう、アンケート等を通じて社会の動向や市民の学習ニーズを把握し、それらを参考にテーマや講師の選定を進めます。

- 博物館では、学校等へのアンケートを通して青少年が学びたいテーマを把握し、事業内容を充実させるとともに、郷土の歴史にどう興味を持たせるかについて検討します。

<1-1-3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実>

- 社会教育課では、生涯学習フェアが様々な団体の活動紹介の場として利用されていることから、開催期間の延長や複数会場での開催、オンラインによる情報提供を継続するなど、様々な方法で広く情報提供を行います。

生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」については、講師・指導者や団体の情報のさらなる充実を図っていきます。

また、市や民間団体による学習会、体験会情報を掲載する「あさひかわ学びの応援講座」は、多くの団体等に活用してもらうため、広報誌など様々な方法で周知します。

- 公民館では、インターネットや公民館だよりにおいて、公民館を拠点に様々な活動に取り組む団体・サークルの情報を積極的に発信するとともに、公民館の利用者やその他の市民に団体・サークルの活動を紹介するなど、それぞれの学習ニーズに合った情報を提供していきます。また、地域への協力を希望する団体の情報を、小中学校等へ提供しコーディネートしていくなど地域学校協働活動の拠点としての役割を果たしていきます。
- 図書館では、レファレンスサービス充実のため、担当職員の育成・スキルアップや資料の充実・更新に努めていきます。

<1-2-1 親や保護者の育ちを支援する取組の充実>

- 社会教育課では、「あさひかわ学びの応援講座」の効果を評価・検証しながら掲載情報の充実を図っていきます。

家庭教育ナビゲーターを活用した取組である「学びカフェ」については、保護者が子育てや家庭教育に関する情報に触れるきっかけとなるよう、生涯学習フェアをはじめ、多くの保護者と子どもが集まるイベント会場に設けるなど、実施方法を検討していきます。

PTA連合会への補助金やプログラム提供を継続することで、連合会が行う保護者の交流や学習の活動を支援していきます。

- 公民館では、地域の団体やボランティア等と連携し、保護者に学習する機会や場を提供していきます。さらに、父親が積極的に家庭教育に関わるための講座を実施します。
- 図書館では、家庭での読書活動の推進のため、市民の家庭教育に関する課題を解決へと導く講師の選定・確保、内部講師の育成等で講座・講演会を充実させていきます。

<1-2-2 親や保護者を孤立させない環境の整備>

- 社会教育課では、保護者の孤立化を防止するためには地域人材との協働が必要なため、養成した家庭教育ナビゲーターが自主的に「学びカフェ」を企画実施して活躍できるような機会を提供し、自主的な活動につながっていくよう働きかけます。
- 公民館の子育てサロンや子育て広場については、毎回多くの子育て中の保護者や妊婦が参加していることから、今後も自由に参加ができ、お互いに相談や交流のできる場の提供を継続するとともに、インターネットや公民館だより等で積極的に情報発信していきます。

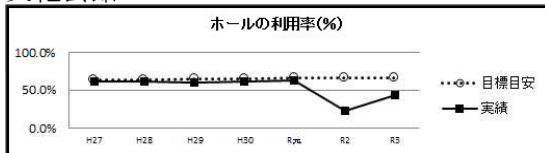
社会教育 基本目標 2 市民の学びを支える環境の整備

【成果目標 2】社会の変化や新たなニーズに応じた施設運営や本市の特性を生かした事業を展開するなど、市民が学習しやすい環境を整備する。

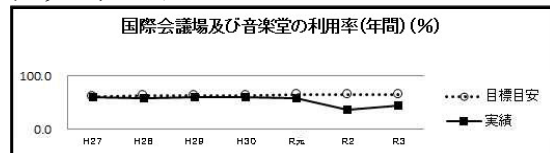
I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
社会教育施設（社会教育部所管）の利用率又は利用者数 ^{*1}	文化会館	66.4%	42.7%	未達成	↘
	クリスタルホール	65.8%	44.4%	未達成	↘
	彫刻美術館	10,968人	4,131人	未達成	↘
	公民館事業課	714,806人	337,660人	未達成	↘
	中央図書館	500,000人	319,217人	未達成	↘
	科学館	280,000人	141,724人	未達成	↘
	博物館	25,000人	14,342人	未達成	↘

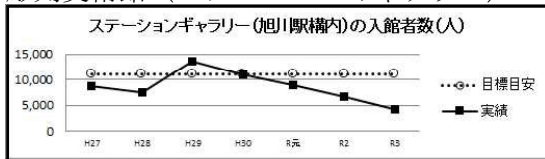
文化会館



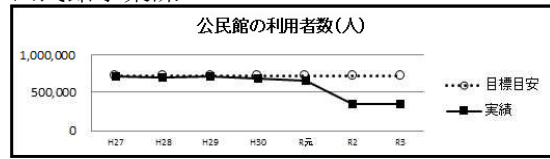
クリスタルホール



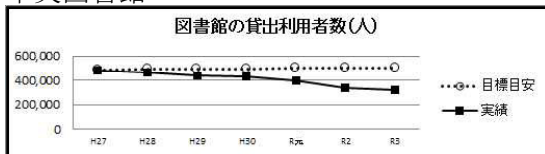
彫刻美術館（ステーションギャラリー）



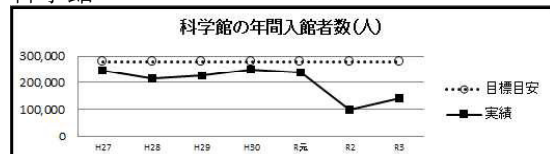
公民館事業課



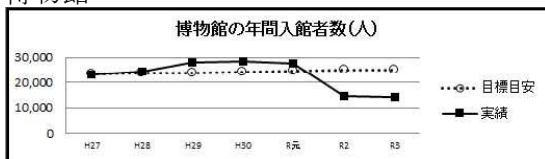
中央図書館



科学館

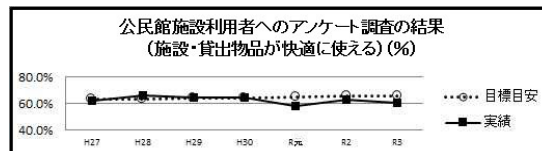


博物館



成果指標 2

成果指標 2		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
社会教育施設を利用しやすいと感じる市民の割合	公民館事業課	66.1%	60.5%	未達成	↘



*1 彫刻美術館は、計画策定時に本館休館中のため、ステーションギャラリーの入館者数

成果指標 3		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
地域の特色を生かした事業への参加者数	公民館事業課	332人	1,217人	達成	—
成果指標 4		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
高等教育機関等との連携による事業実施回数	社会教育課	6回	7回	達成	—
	公民館事業課	98回	66回	未達成	⬇
	中央図書館	3回	5回	達成	—
社会教育課 旭川ウェルビーイング・コンソーシアムとの連携による事業実施回数(回)					
公民館事業課 高等教育機関と連携した講座の実施回数(回)					
中央図書館 図書館講座及び大学図書館と連携した職員研修の実施回数(回)					

II 取組の状況

【基本施策 2-1 施設運営や事業展開に工夫を凝らした学習しやすい環境の整備】

主な取組 2-1-1 市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備

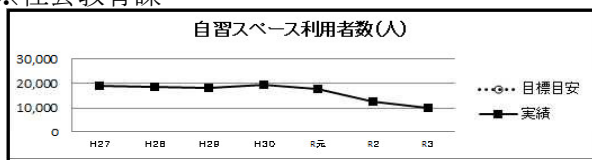
1 市民の学習ニーズを反映した社会教育施設の運営

- ・社会教育課では、市中心部の買物公園に面した商業施設内において、学生等が自由に利用できる「自習スペース」を運営しており、コロナ禍にあっては座席数を減らすなどの感染予防対策を講じながら、利用者ニーズに応じています。
- ・文化振興課では、平成30年8月に上川倉庫蔵囲夢内に開設した市民ギャラリーをはじめ、文学資料館、井上靖記念館等の各施設の管理運営を行い、文化団体の作品展示や、旭川市にゆかりの深い文学について学習する読書会など、アンケートで学習ニーズを確認しながら継続的な学習の機会を提供しました。
- ・文化会館や公会堂、クリスタルホールでは、施設運営に係る業務を民間に委託し効率的な運営を行っています。また、館内設備の修繕等を行いながら、利用しやすい環境の整備に努めました。
- ・彫刻美術館では、彫刻美術館本館とステーションギャラリーの2館における常設展及び企画展や外部機関との連携、ギャラリートーク、ワークショップの開催等を通して「彫刻のまち旭川」の魅力を発信しました。ステーションギャラリーでは、織田コレクションの展示や若者の発表の場として大学生作品展を開催するなど、彫刻にとらわれない文化芸術の発信拠点として活用を図りました。
- ・公民館では、利用者アンケートや地域住民と公民館の運営について協議する公民館フォーラムを通してニーズを把握しながら適切な管理運営を行うとともに、一部の公民館では地域で組織する団体の指定管理者制度による運営を行っています。
- ・図書館では、市民が利用しやすく快適に過ごせる読書環境の整備・充実、施設管理を行いました。

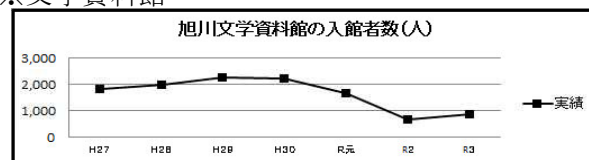
また、高齢者や障がい者を含む様々な市民の学習ニーズに応えるため、図書館資料の収集やインターネット予約制度のほか、ボランティアの協力も得て、図書宅配サービス、障がい者向けの音訳サービスなどにも継続的に取り組みました。

- ・科学館では、引き続き、自然科学の知識・情報を得るという市民ニーズに応えられるよう、各年代に応じた自然科学やものづくりなど多様なテーマの事業を企画実施しています。
- ・博物館では引き続き、アンケートを行うなど市民の学習ニーズの把握に努めながら各種体験学習や企画展を実施しています。

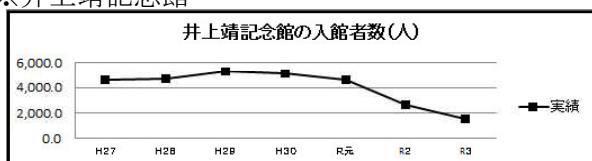
※社会教育課



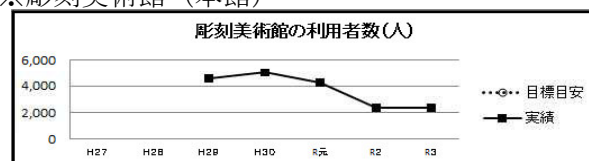
※文学資料館



※井上靖記念館



※彫刻美術館（本館）^{*1}



2 誰もが利用しやすい社会教育施設の整備

- ・各施設では、緊急事態宣言等に伴う臨時休館や、感染症予防対策（消毒や換気の徹底、来館者への情報提供など）を行い、安心安全に利用できる環境づくりに取り組みました。
- ・常磐館や井上靖記念館では、設備の修繕を行うことで、安全な利用環境を整備しました。
- ・文化会館・公会堂やクリスタルホールでは、安全かつ安定した運営に当たり、優先度や経済性等を考慮しながら、施設の機能維持のために必要な整備を行いました。文化会館小ホールのどんちょう落下の事故があり、人的被害はありませんでしたが、どんちょうの点検や修繕により、大ホールの利用を一時中止しました。
- ・公民館は、団体利用を基本とする施設ですが、地域住民が気軽に利用でき、交流できる場として、卓球・囲碁・ミニテニス等の施設開放事業を実施しました。また、施設利用者の安全性や快適性を確保するため、施設・設備の改修や整備を行いました。
- ・中央図書館では、小中学校の夏休み期間に、通常は休館日である月曜日を開館したほか、開館時間を延長するなど、多様な生活形態の市民が利用しやすい施設となるような取組を継続しています。
- ・科学館では、寄附金活用事業を活用して、市民がものづくりに利用できるデジタル工作機械等を備えた「テック・ラボ」を開設したほか、設備更新を行いました。
- ・博物館では、アイヌ文化を保存・伝承し、市民の学習の場として重要な役割を持つアイヌ文化の森・伝承のコタンにあるアイヌの住居「チセ」1棟を、次年度の建替に向けて解体するとともに柱材等の資源調達、乾燥、加工などを行いました。

3 社会教育施設の拠点機能の充実

- ・公民館では、事務局として、地域まちづくり推進協議会の運営支援に参画することで、地域課題を把握し、地域に根ざした公民館運営を行うことができました。
- ・図書館では、貸出、予約、レファレンス状況等の読書傾向から市民の学習ニーズを把握し、中央図書館・地区図書館・分室・自動車文庫等の連携により、市民が最寄りの図書館・分室でサービスを受けることができる環境となっており、各施設には司書を配置し、読書機会の提供や学習活動の支援を行っています。また、中央図書館での開館時間の拡充は、利用者の利便性向上に資することができました。

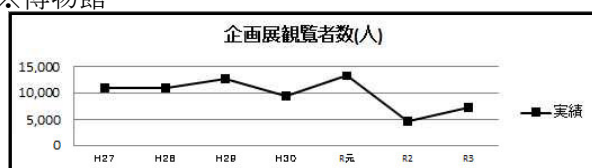
*1 H29は10月8日以降の数

主な取組 2-1-2 関係機関等との多様な連携による学習環境の整備

1 高等教育機関等との連携による高度な学習機会の提供

- ・社会教育課では、引き続き、市内の高等教育機関の連携機関である旭川ウェルビーイング・コンソーシアムとの共催で旭川オープンカレッジを実施したほか、放送大学との連携により、生涯学習フェアにおいて講演会を開催し、市民に学習機会を提供しました。
- ・公民館では、高等教育機関等の協力のもと、各機関の持つ高い専門性や幅広い分野でのノウハウを生かし、旭川全域や一部地域における特色ある環境・文化・歴史等の資源に関する講座を展開しました。
- ・図書館では、北海道内の高等教育機関等と連携して講座を開催し、高度な学習機会を提供することで、参加者の読書活動推進につながりました。
- ・博物館では、北海道内の高等教育機関と連携した連続講座「アイヌの言語と文化」を開催し、市民に専門分野の学習機会を提供するとともに、企画展をそれぞれ違ったテーマで開催しました。

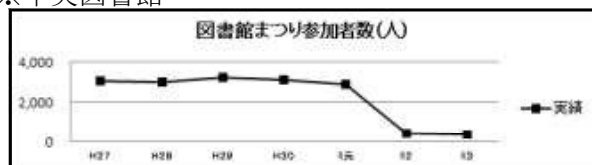
※博物館



2 社会教育関係団体等との連携による特性を生かした学習機会の提供

- ・社会教育課が開催した生涯学習フェアでは、身近な環境問題について考える団体や旭川の魅力を伝える団体等がパネル展や作品展を展開したほか、第30回記念講演会において旭川の魅力を様々な分野の専門家が講演し、市民が学びを深めました。
- ・文学資料館では、文学資料友の会との協働により各種企画展を実施し、広く地域ゆかりの文学を学習する機会を提供しました。また、収集資料をデータ化し、誰でも検索できるようにしています。
- ・公民館では、NPO法人や生涯学習団体など様々な分野の団体等と共催又は連携をしながら、旭川市の自然・歴史・産業・文化等の特色あるテーマについての講座を開催し、幅広い世代に学習機会を提供することができました。
- ・図書館では、引き続き、図書館ボランティアの協力を得て、図書館まつりや絵本の読み聞かせ等を実施し、幅広い世代に図書館や読書に親しんでもらう機会を提供しました。

※中央図書館



3 市長部局との積極的な連携による学習機会の提供

- ・社会教育課では、市の各部局と連携し、市職員や関係団体の職員等を講師として派遣する出前講座の情報をまとめた冊子「あさひかわ学びの応援講座」を支所や市有施設に配布し、多様な学習機会を提供しました。また、地域学校協働活動を実施し、子どもたちが地域住民から学ぶ機会をコーディネートしました。
- ・公民館では、市の各部局との事業共催や講師派遣により、行政機関のノウハウを生かした農業・環境等多岐にわたる分野で学習機会を提供することができました。
- ・図書館では、市の各部局と連携した企画パネル展示の会場として活用してもらい、市民に様々な情報を提供しました。

Ⅲ 今後の課題と改善に向けた方向性

事業を通して、市民が主体的に学んでいるかどうかという成果を把握する手法を検討しながら、市民が学習しやすい環境を整備していきます。

< 2-1-1 市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備 >

各社会教育施設では、感染症拡大防止のため様々な対策を行ってきましたが、今後も安心安全に利用できるよう、状況に応じた施設の運営形態や利用方法を検討していきます。

- 社会教育課が管理する「自習スペース」は学生を中心に多くの利用があるため、引き続き感染症拡大防止対策を講じながら、利用者ニーズに応じた適切な運営を行っていきます。
- 文学資料館では、旭川ゆかりの漫画家の展示や資料館以外での展示といった、新たな展示内容や方法を実施していきます。
- 常磐館内の文学資料館では、市民団体との協働により資料の整理を進めながら、旭川の文化の豊かさを周知する事業を継続します。施設の管理については、常磐館は老朽化が著しく、バリアフリー面や構造面で多くの課題を抱えているため、必要な施設整備を行うとともに、機能の移転等に向けて検討を進めていきます。
- 文化会館及び公会堂については、これまでの利用状況を精査して利用者ニーズの把握や利用しやすい環境整備の方向性を検討しながら、計画的かつ経済的な施設の運用及び補修等を進めていきます。
- クリスタルホールについては、建物などの老朽化が進んでいますが、利用者の安全確保と文化ホールとしての機能を維持するため、長期的な施設補修計画を立て、設備の整備や機器の更新を行っていきます。
- 彫刻美術館では、引き続き、分館であるステーションギャラリーと連動した魅力ある企画展の実施や、外部機関との連携により「彫刻のまち旭川」の情報発信の場として機能強化を図っていきます。
- 公民館では、老朽化している施設の状況や、施設利用に当たってのニーズを把握し、予防的な改修・修繕等の計画的な実施と学習ニーズに合わせた運営をするとともに、将来の施設運営のあり方について、引き続き、検討を行います。
公民館利用のきっかけとなる施設開放事業については、内容を検討しながら継続するほか、地域まちづくり推進協議会における協議内容等を踏まえ、地域課題の解決の一助となるような活動を継続していきます。
- 図書館では、施設の老朽化等に対し、長期的かつ計画的な保守・補修を進めていきます。
図書館資料については、ウィズコロナ時代の新しい生活様式への対応や障がいのある方等の読書環境の充実を図るため、電子書籍サービスの導入・整備を進めていきます。
中央図書館では、小中学校の夏冬休み期間の月曜開館や開館時間の拡大について、利用拡大につながるよう周知に努めます。
- 科学館では、市民の期待に応えられるような企画内容・質・規模の催事を継続的に実施するため、高等教育機関、企業、団体等との連携の強化を行っていきます。また、広報活動やSNSの活用等、科学館の取組に関する情報発信を強化し、市民の学習ニーズに応えられる施設運営を行います。
施設や設備の老朽化に対しては、引き続き緊急性の高いものから順次修繕を行い、快適な学習環境となるよう整備します。
- 博物館では、アンケート等による市民の学習ニーズの把握に努めながら今後も時宜を得た企画展の開催や普及活動の充実に取り組んでいきます。
- これらの各社会教育施設やその他の関係施設が相互に連携し、市民が各施設を回遊することにつながるような仕組みの定着を進めます。

< 2-1-2 関係機関等との多様な連携による学習環境の整備 >

- 社会教育課が高等教育機関と連携して行う講座では、参加者が高齢化や固定化しているものもあることから、参加しやすいよう講座を土・日曜日にも開催するとともに、アンケートを引き続き行うなど参加者層やその成果について検証します。

市長部局との連携では、多くの市民が身近な課題に関する学習機会を得ることができるよう、効果的な配付場所を検討しながら、「あさひかわ学びの応援講座」の周知冊子を広く提供していきます。

- 文学資料館については、引き続き、市民団体と連携して資料整理を着実に進めるとともに、来場者へのアンケート等により市民の学習ニーズを把握しながら企画展を開催するなど、旭川の文学を広く市民へ紹介していきます。
- 公民館では、高等教育機関の講師による専門分野の講座は参加者から好評であることから、市内高等教育機関との連携を深め、各専門分野のノウハウを生かした講座や学生との連携講座を継続して実施していきます。

また、幅広い世代に、郷土学習など様々な分野での学習機会を提供するため、多様な社会教育関係団体等と連携し、定期的及び時宜を得た事業を展開していきます。

- 図書館では、高等教育機関等と連携した講座について、講師の選定、開催日時に配慮し、図書館の利用拡大につながるような新鮮なテーマを取り入れるなど、多くの市民が興味を持てるような内容とします。また、より多くの市民に図書館行事へ参加してもらうため、学習ニーズに合わせた機会が得られるような内容を検討します。さらに、図書館以外の場でも子どもたちが本に親しむ機会を増やすため、保育所や幼稚園、学校、地域とも連携を図っていきます。

子育て支援部の乳幼児健康相談会場で行っていた「えほんどだっこ」については、実施日が図書館の休館日である月曜日と重なることが多いため、事業の継続について、他の会場での開催や他部局との連携を検討していきます。

- 博物館の専門分野を学ぶ講座では、専門性と親しみやすさの両立が求められるため、より理解しやすくなるよう、内容については、タイトルも含めて講師と協議しながら決定していきます。

社会教育 基本目標 3 地域における学びの循環

【成果目標 3】シニア世代をはじめとした地域の人材を活用し、学習成果を還元する取組を充実させるほか、家庭、地域、学校が連携し、つながりを深めながら学び合える環境を整備する。

I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較	
ボランティアと連携して実施する事業*	公民館事業課	423回	435回	達成	—	
	中央図書館	1,677人	737人	未達成	↘	
	博物館	4回	1回	未達成	↘	
公民館事業課 		中央図書館 				
博物館 						
成果指標 2		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較	
事業への参加を通じて新たな人とのつながりができた人の割合		公民館事業課	71.9%	58.5%	未達成	↘
成果指標 3		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較	
シニア世代の知識や経験を伝える世代間交流の実施回数		公民館事業課	28回	2回	未達成	↘
成果指標 4		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較	
学校、地域、家庭と連携して実施した事業の参加者数	社会教育課	1,600回	—	未達成	↘	
	公民館事業課	21,089人	4,845人	未達成	↘	
社会教育課 ^{*2} 		公民館事業課 				

*1 中央図書館は、ボランティアの行事参加者数

*2 R 2, 3は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から利用中止

成果指標 5		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
青少年活動に関する事業への参加者数	公民館事業課	12,902人	3,370人	未達成	◆

青少年教育事業への参加者数(人)

年度	目標目安	実績
H27	12,902	12,000
H28	12,902	12,000
H29	12,902	12,000
H30	12,902	12,000
R元	12,902	12,000
R2	12,902	8,000
R3	12,902	3,370

II 取組の状況

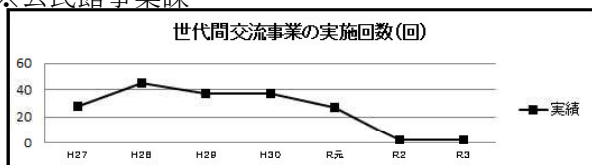
【基本施策 3-1 地域における教育力の向上】

主な取組 3-1-1 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備

1 シニア世代などの知識・技術を生かした活動の場の提供

- ・公民館では、世代間交流事業として、高齢者が専門学校生と保健福祉をテーマにディスカッションによる交流を行い、自らの知識や経験を活用することができる場を提供しました。
- ・クリスタルホールでは、地域で活動する文化団体等の活動成果発表の場として、市民発表コンサート「ウインターコンサート」を無観客で開催し、アマチュア演奏家が活動成果を発表する機会を提供しました。

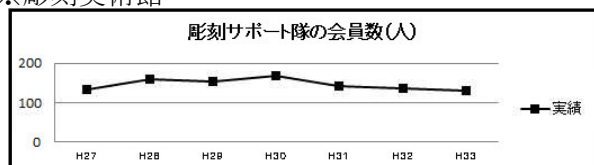
※公民館事業課



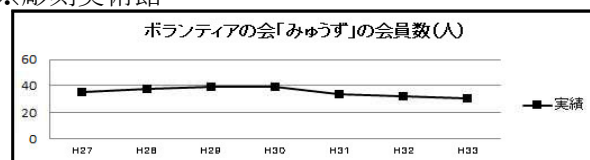
2 学習成果を生かしたボランティア活動の促進

- ・彫刻美術館では、旭川彫刻サポート隊による野外彫刻の定期的な清掃活動やワックス塗付などの維持管理、ボランティアの会「みゅうず」による喫茶コーナー及び美術鑑賞の記念グッズの物販コーナーの運営により、館内外の彫刻作品を鑑賞する市民等に対し、より幅広いサービスを提供することで、魅力ある館の運営と市民サービスの充実が図られました。
また、コロナ禍においてはボランティア活動が難しい状況でしたが、各団体が感染対策を行いながら、活動時期や回数を考え、清掃活動や喫茶コーナーの運営等を実施しました。
- ・公民館では、シニア大学卒業生等の自主組織「シニアの会」による「まちなか講座」の運営協力が継続されました。また、公民館まつりや文化祭では、生涯学習活動団体が活動で制作した作品の展示などにより学習の成果を発表しました。
- ・図書館では、図書館ボランティア登録団体に、活動場所や研修機会の提供、活動成果の発表の支援など、様々な活動を活発に行うことができるよう必要な支援をしています。
- ・科学館では、サイエンスボランティア旭川と協働で事業等を実施するとともに、ボランティアの自主企画・自主開催による催しも行われているほか、テック・ラボでの支援が新たに加わり、科学のおもしろさ、学ぶ楽しさを伝えています。
- ・博物館では、退職校長会旭川支部の有志で構成される博物館ボランティアと連携し、資料の整理や調査を実施したほか、「アイヌ文化に親しむ日」でボランティアが工作を教える体験学習事業等を行いました。

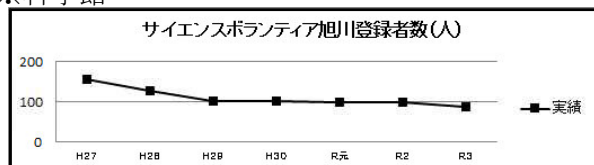
※彫刻美術館



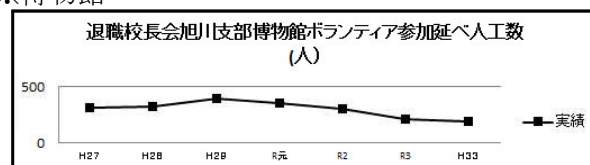
※彫刻美術館



※科学館



※博物館

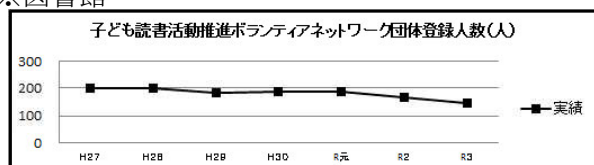


主な取組 3-1-2 地域社会を担う団体や人材の育成支援

1 社会教育関係団体の育成支援

- ・社会教育課では、PTA連合会が行う各種の活動へ補助金を交付したほか、社会教育・文化芸術事業補助金を、家庭教育学級などが行う自主的な学習活動に対し支援できるよう整備しています。また、社会教育団体の活動成果の発表の場として生涯学習フェアを開催し、団体自らが工夫を凝らして制作したポスターを掲示して周知を行うなど、主体的に関わる意識付けを行いました。
- ・公民館では、青少年・成人・高齢者など様々な分野の社会教育関係団体等との共催により、子育てサロン、健康講座、子ども向けの外国語講座等を定期的開設しました。
- ・図書館では、絵本の読み聞かせ活動のためのボランティア養成講座を実施し、子ども読書推進の担い手を育成するとともに、ボランティア相互の連携を促進するため、ボランティアネットワーク会員が自主的に行う研修会に職員を講師として派遣する等の支援を行いました。

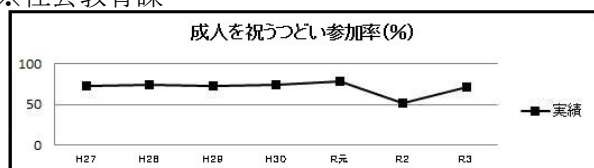
※図書館



2 指導者の育成支援に向けた取組の充実

- ・社会教育課では、新成人たちの門出を祝うとともに、今後社会で力強く生きていくよう激励する場である「成人を祝うつどい」について、新成人を中心とした実行委員会との企画・主催による開催を支援しています。

※社会教育課^{*1}



*1 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、R2実施分をR3年1月9日に、R3実施分をR4年5月4日に実施。

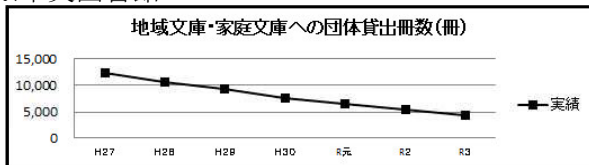
【基本施策3-2 家庭、地域、学校の連携の推進】

主な取組3-2-1 家庭、地域、学校の連携による青少年などの活動を支援する取組の充実

1 地域における青少年の学習活動の充実

- ・社会教育課では、モデル地域における地域学校協働活動として、中学生が子どもの居場所づくりのスタッフとして参加したり、道路の草取りや除雪など地域の担い手として困りごとを解決したりするなど、地域と学校が連携した学習活動をコーディネートしました。
- ・公民館では、地域の学校や保育所、関係団体・機関と連携を図りながら、ものづくりや料理などの創作活動、自然体験、語学学習等、様々な知識や経験を身に付けるための講座を実施しました。
- ・図書館では、地域で活動する地域文庫や家庭文庫を支援するため、図書の団体貸出を実施し、地域や家庭における子どもの読書活動を推進しました。

※中央図書館



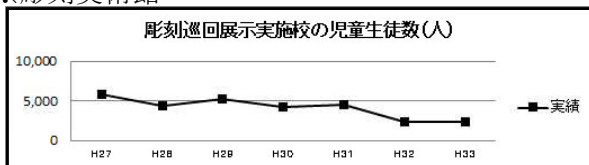
2 子どもたちを中心とした交流による学び合いの場の提供

- ・公民館では、小学生を対象に「夏休み工作教室」でビー玉と型紙を使用してカーリンコンのストーンを作り、小学生同士で競技したり、「虫の学校」ではグループで昆虫採集して標本づくりをしたりするなど、身近なものの工作等によって参加者同士がそれぞれの作品を通じて互いに教え学び合う場の提供を行いました。

3 家庭、地域、学校との連携を更に深める取組の充実

- ・社会教育課では、親や保護者の自主的な学習活動に対し、これを支援する補助金を整備しています。また、効果的な学習活動の方法について助言しました。
さらに、地域学校協働活動として、地域のごみ拾いや除雪、学校行事への支援等を地域と学校が連携して行えるようコーディネートしました。
- ・彫刻美術館では、子どもたちや保護者、地域住民が身近な学校で彫刻を鑑賞することができる彫刻巡回展示を実施しました。また、教育機関等との連携により、児童生徒には彫刻の見方や考え方を広げながら、より親しみを感じてもらおうよう、教員には彫刻の鑑賞の仕方や今後の授業への活用方法などを知ってもらう機会となるよう、彫刻巡回展示の作品を利用した出前授業を実施しました。
- ・公民館では、学校や地域の関係団体と共催・連携・協力し、世代間交流事業や子育てサロン、子ども向け外国語講座等の定期的な開設など、幅広い世代に多様な学習機会を提供することができました。

※彫刻美術館



Ⅲ 今後の課題と改善に向けた方向性

豊かな経験や知識を持つシニア世代をはじめとした地域の人材を活用し、学習成果を還元する取り組みを充実させるほか、家庭、地域、学校が連携し、つながりを深めながら学び合える環境の整備について、アンケート等によりその成果を確認しながら進めていきます。

<3-1-1 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備>

○ 各施設におけるボランティアについては、参加人数の多くが横ばい又は減少傾向にあることから、各ボランティアの活動を支援するために、その活動内容や特色を多くの市民に知ってもらう取組をさらに行い、活動に参加する市民を増やしていく必要があります。このため、各ボランティアの活動を各講座への参加者や公民館の百寿大学で周知し参加につなげるなど、社会教育部内でも連携を図っていきます。

また、各施設では、ボランティアの活動を単なる施設の運営支援ではなく、ボランティアの知識・経験・学習成果を発揮する場として捉え、取組を進めていきます。

<3-1-2 地域社会を担う団体や人材の育成支援>

○ 社会教育課で行っている生涯学習フェアは、参加者自身がフェアの企画や運営に主体的に関わり、学習成果を還元する取組を行うなど、開催内容について更に検討を進めていきます。

また、家庭教育ナビゲーターが活躍できる場を発掘・提供し、自主的な活動につながっていくよう働きかけます。

○ 公民館では、幅広い世代に多様な学習機会を提供するため、様々な分野で独自の活動を行う社会教育関係団体との連携を強化し、定期的及び時宜を得た共催事業の展開を図っていきます。

○ シニア大学では、卒業後に自主的なまちづくりの活動に結びつくよう、実践の場に関する情報を提供していくとともに、カリキュラムの内容を随時見直し、充実を図ります。

○ 図書館では、ボランティアの人材育成やスキルアップのため、養成講座やボランティアのステップアップにつながる学習機会、ボランティア同士の交流の機会を継続的に提供するとともに、ボランティアの学習ニーズに沿った研修内容を検討していきます。

<3-2-1 家庭、地域、学校の連携による青少年などの活動を支援する取組の充実>

○ 社会教育課では、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働し、地域全体で子どもの学びや成長を支えていく「地域学校協働活動」について、モデル地域において、地域と学校の組織的・継続的な連携・協働体制を整備するとともに、地域住民の地域や学校の活動に主体的に参画する意識の醸成を図り、学校を核とした地域づくりを進めていきます。

○ 彫刻美術館の巡回展示及び出前授業は、参加した学校などから彫刻に親しむ機会につながったなどの意見を得ていることから、今後も学校と連携しながら実施していきます。また、多くの学校が巡回展示を活用できるよう、必要な予算等の確保に努めていきます。

○ 公民館では、家庭教育に関する団体との連携を強化し、子育てサロン等で家庭教育や青少年教育に関する事業を実施していきます。

○ 図書館では、地域文庫や家庭文庫を支援するため、団体貸出の利便性を高めるための制度の見直しを引き続き進めるとともに、制度の周知を図っていきます。

社会教育

基本目標 4 市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実

【成果目標 4】人々が気軽に文化芸術に触れられる取組を進めるとともに、団体等への支援や関連施設を更に活用することにより、文化芸術の振興を図る。

I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
文化芸術に関する事業の入場者数	文化会館	3,161人	1,437人	未達成	◇
	クリスタルホール	3,262人	1,010人	未達成	◇
	公民館事業課	19,940人	1,128人	未達成	◇
	中央図書館	1,693人	388人	未達成	➡
<p>文化会館</p> <p>文化会館自主文化事業への参加者数(人)</p>		<p>クリスタルホール</p> <p>クリスタルホール自主文化事業の入場者数(人)</p>			
<p>公民館事業課</p> <p>公民館まつり、木楽輪夢コンサートの参加者数及び木楽輪グラントピアノ開放利用者数(人)</p>		<p>中央図書館</p> <p>図書館まつりの参加者数(人)</p>			
成果指標 2		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
自主文化事業への参加者の満足度	文化会館	94.5%	97.8%	達成	—
	クリスタルホール	86.9%	91.4%	達成	—
<p>文化会館*1</p> <p>自主文化事業参加者へのアンケート調査の結果(とても良かった・良かった)(%)</p>		<p>クリスタルホール</p> <p>自主文化事業参加者へのアンケート調査の結果(とても良かった)(%)</p>			
成果指標 3		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
文化芸術活動に係る補助金の新規交付団体数	文化振興課	4団体	0団体	未達成	➡
<p>文化芸術活動に係る補助金の新規交付団体数(団体)</p>					

*1 R2は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からアンケート調査未実施

成果指標 4		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
文化芸術活動に係る成果発表の場を活用する団体数 ^{*1}	クリスタルホール	7団体	5団体	未達成	▼

市民発表コンサート「ウィンターコンサート」の出演団体数(団体)

年度	目標値	実績
H27	7	7
H28	7	7
H29	7	11
H30	7	10
R元	7	7
R2	7	10
R3	7	5

II 取組の状況

【基本施策 4-1 文化芸術活動に関わりを持つ機会の充実と独自性ある取組の充実】

主な取組 4-1-1 文化芸術に親しむ機会の充実

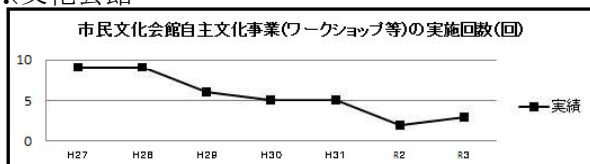
1 文化芸術に接する機会の充実

- ・文学資料館では、市民との協働により各種企画展を実施し、広く地域ゆかりの文学を紹介することで、市民の文学へ接する機会の充実を図ることができました。
- ・彫刻美術館では、本館とステーションギャラリーにおける常設展及び企画展を実施したほか、特にステーションギャラリーでは、織田コレクションや大学生作品展を開催するなど、広く文化芸術の発信拠点として活用を図りました。
- ・文化会館やクリスタルホールの鑑賞型の自主文化事業では、幅広い年齢層の市民に、文化芸術に接する機会を提供しました。来場者アンケートでは高い満足度が示されており、市民の文化芸術に親しむ機会の充実を図ることができました。
- ・図書館のミニギャラリーでは、市内又は近隣市町村で活躍する様々なジャンルの文化芸術活動団体・個人に発表の機会を提供するとともに、来館者に対して文化芸術に接する機会を提供できました。

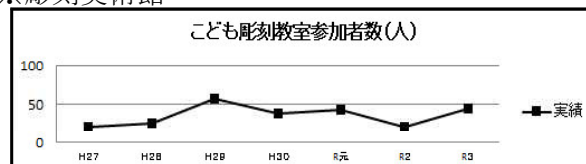
2 文化芸術への関心を高める取組の充実

- ・文化会館やクリスタルホールでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分にとり、バックステージツアーや子ども向け・親子向けコンサートを開催しました。
- ・彫刻美術館では、「こども彫刻教室」や彫刻巡回展示出前授業等を実施し、彫刻についての理解を深め、美術全般への関心を高める機会を提供しました。

※文化会館



※彫刻美術館

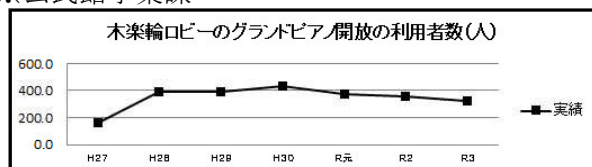


3 関連施設の機能を生かした文化芸術活動の推進

- ・神楽公民館木楽輪では、地元のアマチュア演奏家に発表の機会を提供したほか、グランドピアノの開放事業を継続し、市民の文化芸術活動の場として着実に活動機会の提供とその利活用が図られています。

*1 R元は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

※公民館事業課



主な取組 4-1-2 文化芸術活動への支援

1 文化芸術に関わる団体への支援や人材の育成

- ・社会教育・文化芸術事業補助金では、文化芸術団体が実施するイベントの経費を一部助成しました。
- ・文化会館やクリスタルホールでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施した上でのホール等利用に係る使用料減免を行うなど、活動の支援を行いました。また、公会堂では、高校生が自主的に演劇を開催できるよう、舞台機構や音響、照明等を学ぶ講習会を実施しました。
- ・このほか、市民の様々な活動成果の発表の機会として、ウインターコンサート、中央図書館ミニギャラリーを実施し、アマチュア演奏家や芸術家等の市民に活用されました。

2 関係団体等と連携した文化芸術活動の推進

- ・井上靖記念館では、井上靖記念文化財団からの資料提供協力を受け、充実した展示を開催できたほか、文学資料館では、文学資料友の会と協働で旭川ゆかりの文学者・文学作品に関する各種資料の収集・整理を行い、企画展や講座を開催しました。また、文学資料友の会や新聞社、市民団体と連携して、青少年の文学への関心を高めることを目的に、中高生を対象としたエッセーコンクールを実施しました。
- ・彫刻美術館では、市民と協働した旭川彫刻フェスタ実行委員会により、彫刻フェスタ20年間の活動を紹介する動画コンテンツを制作したほか、小中学校への彫刻巡回展示では、教員に向けて鑑賞の仕方や今後の授業への活用方法を知ってもらうなど、彫刻だけでなく美術全般への関心が高まる機会を提供しました。
- ・博物館では、北海道大学アイヌ・先住民研究センターや旭川兵村記念館、川村カ子トアイヌ記念館と連携し、専門分野を学ぶ講座の開催や、学校等団体向けの特別講座を開催しました。また、旭川龍谷高等学校等と連携し、アイヌ史・アイヌ文化に係る共同研究を実施しました。

Ⅲ 今後の課題と改善に向けた方向性

旭川市は、彫刻のまち、文学のまち、音楽のまち等と称されるなど、文化芸術活動が盛んなまちです。都市と自然との調和、市民が行き交う平和通買物公園、家具に代表されるデザイン産業の発達、雪と氷に覆われる厳しい冬などの様々な特徴を生かし、様々な文化イベント等を行っています。彫刻サポート隊、コンサートボランティアなど、文化芸術活動を支えるボランティア活動が盛んなことも特徴のひとつです。こうした旭川市の地域性を生かした文化芸術活動の支援を継続するとともに、ボランティア等との意見交換も行いながら、旭川市らしい文化芸術の振興を図っていきます。

また、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、特に文化・芸術事業については、従来どおりの公演・発表や、日常の練習等の活動を行うことが困難となってきており、中には団体の存続が危ぶまれる状況に至るケースも見られます。こうした中でも市民が文化・芸術に親しむ機会が失われることのないよう、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した活動場所の確保・提供や、文化芸術活動団体への支援策等を検討するなど、必要な対策を進めていきます。

< 4-1-1 文化芸術に親しむ機会の充実 >

- 文化会館の自主文化事業については、収支の改善のために補助制度の活用等も視野に入れ、継続した取組となるよう事業構築を図るとともに、引き続き、市民のニーズを反映した事業の選考

や周知の方法を検討し、多くの市民が優れた舞台芸術に低廉な価格で触れることができる機会を提供していきます。

- クリスタルホールの自主文化事業では、幅広い年齢層を対象にした多様な分野の公演・講座等を企画しましたが、今後もアンケートなどから参加者の学習ニーズを把握し、多くの市民が参加できるよう事業内容を充実させるとともに、チケットについては、収支バランスがとれ、かつ購入しやすい料金を設定します。
- 彫刻美術館の講座やワークショップは、講師の意見を反映しながら工夫を凝らして実施していますが、より多くの市民に参加してもらうため、今後も講師や関係機関と連携しながら、積極的に広報活動を行っていきます。
- 木楽輪での「夢コンサート」は、例年、出演希望者・観覧者ともに多いことから、「夢コンサート」及び「グランドピアノ開放」を継続して実施し、アマチュア演奏家の活動の場と市民が気軽に音楽や文化・芸術に触れることができる環境の充実を図ります。
- 図書館では、ミニギャラリーやキッズルームを多くの市民に活用してもらうため、市の他部局への情報提供や市民団体等への情報発信をしていきます。

< 4-1-2 文化芸術活動への支援 >

- 社会教育・文化芸術事業補助金については、社会教育課と文化振興課が連携し、広報誌やSNSなど様々な方法で制度の周知を強化していくとともに、団体の利用状況等の検証を行いながら運用を進めていきます。
- 文化会館では、減免制度の継続により活動団体の財政的支援を図るとともに、舞台技術講習会等の実施と合わせ、ワークショップなどの学習機会を提供していきます。
- クリスタルホールのコンサートボランティアについては、例年、主催者からの活動要望が多いものの、登録者は高齢化・減少傾向にあるため、活動を広く周知して新規登録者を確保するとともに、今後の活動の在り方やコロナ禍における対策についての検討を進めていきます。
- クリスタルホールの制作型委託公演及び「子ども音楽プロジェクト」については、新型コロナウイルス感染拡大により中止としましたが、市民参加による音楽芸術の発展や地域人材の発掘、市民の企画力や公演技術を高める機会であることから、引き続き事業周知や集客に努め、地域にゆかりのある演奏家と連携するなど、旭川ならではの事業となるよう取組を進めていきます。
- 旭川彫刻フェスタや彫刻巡回展示出前授業は、今後も関係団体と連携しながら、彫刻を身近なものと感じられる取組を継続的に実施していきます。
- 公民館では、公民館まつり等を運営する生涯学習活動団体の高齢化が進んでいるため、一定の団体に片寄らない取組が必要となっており、学習成果発表の場の充実や団体同士が連携できる機会の提供を継続していきます。
- 図書館のミニギャラリーでの展示について、現在、文化関係団体とは展示場所の提供以外でのつながりが少ないことから、共同企画による展示の実施などで連携していきます。
- 博物館のアイヌ語講座等では、他の研究機関等との議論を深めながら、高度な専門性と市民にとっての親しみやすさを両立し、市民が理解しやすい内容となるよう工夫を重ねるとともに、より関心を持ってもらえるような広報活動を探求していきます。

社会教育 基本目標 5 郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成

【成果目標 5】アイヌ文化をはじめ地域に根付いた文化、ゆかりの文化財等の魅力を発信しながら、次代へ引き継ぐとともに、郷土愛を育む。

I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
郷土の文化や歴史に関する保存資料数	中央図書館	73,700点	72,321点	未達成	◇
	博物館	2,452点	2,670点	達成	—
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>中央図書館</p> <p>中央図書館郷土資料の所蔵点数(点)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>博物館</p> <p>民族資料整理に伴い出版する目録への掲載点数(点)</p> </div> </div>					
成果指標 2		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
郷土の文化を知る取組への参加者数	彫刻美術館	1,277人	473人	未達成	◀
	博物館	1,610人	745人	未達成	◀
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>彫刻美術館^{*1}</p> <p>彫刻巡回展示出前授業参加児童生徒数(人)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>博物館</p> <p>博物館講座等教育普及事業 (企画展・アイヌ文化関連事業を除く)の参加者数(人)</p> </div> </div>					
成果指標 3		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
アイヌ文化に関する事業への参加者数 ^{*2}	博物館	3,024人	1,359人	未達成	◇
<p>アイヌ文化ふれあいまつり及びアイヌ文化に親しむ日の参加者数(人)</p>					
成果指標 4		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
アイヌ文化をはじめ地域に根付いた文化に関する講座等への参加者の満足度	博物館	81.1%	87.9%	達成	—
<p>教育普及事業参加者に対するアンケート調査の結果 (満足・まあまあ良いの割合)(%)</p>					

*1 R2は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止したため、R元実績値との比較。

*2 H29は台風、R2、3は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からアイヌ文化ふれあいまつりが中止となったため、アイヌ文化に親しむ日のみの参加者数

【基本施策5-1 郷土の文化の保存・活用と郷土愛の育成】

主な取組5-1-1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用

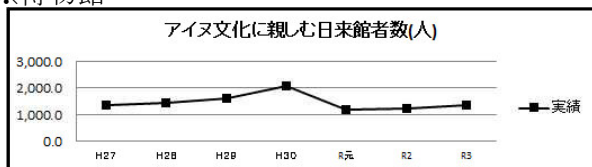
1 文化財等の適切な保存と継承

- ・文化振興課では、伝統芸能の保存・伝承のため旭川郷土芸能保存連合会へ運営費の助成を行いました。
- ・優佳良織については、その技術を伝承し後世へ継承するため、優佳良織技術者の育成活動への助成を行い、2名が伝統的な「織り」と「染め」の技術を習得しました。
- ・旧旭川偕行社については、貴重な重要文化財を保存し後世へ継承するため、彫刻美術館として適正に維持管理を行うとともに、棟札や鬼瓦等を展示し、その魅力について紹介しました。また、その他の文化財についても、適正に維持管理を行い、保存に努めました。

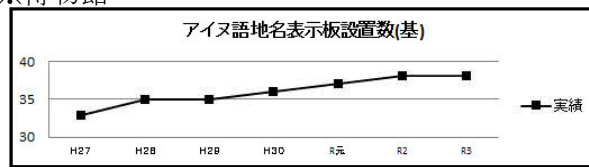
2 貴重な文化財等を活用した郷土の歴史を後世に伝える取組の推進

- ・博物館では、「アイヌ文化に親しむ日」を開催したほか、市内の小学校7校でアイヌ古式舞踊を鑑賞・体験する機会を設けたり、アイヌ古式舞踊を動画で公開したりするなどアイヌ文化の保存と継承に努めました。また、郷土の身近な歴史を伝える取組として、アイヌ語地名表示板の製作に取り組みました。
- ・図書館では、郷土資料を活用した企画展示を実施しました。

※博物館



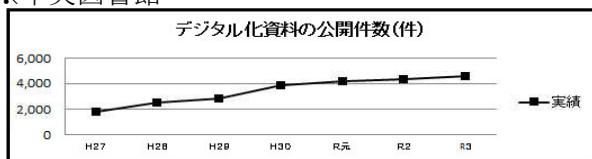
※博物館



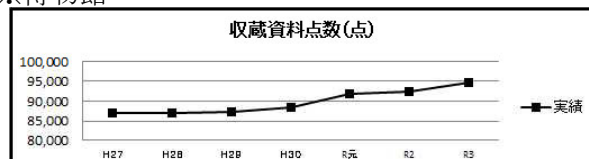
3 歴史的資料の収集・保存と整理

- ・図書館や博物館では、旭川地域や上川地方に関連する歴史・文化に関する資料の収集・整理・保存を進めています。特に、図書館所蔵写真資料については、長期に保存できるよう体系的に整理し、デジタル化を進めています。

※中央図書館



※博物館



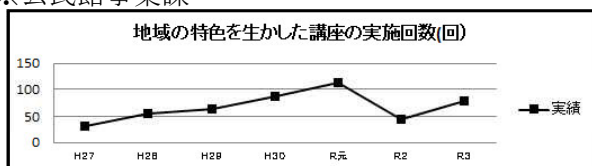
主な取組5-1-2 郷土愛を育むための取組の推進

1 郷土の文化に接する機会や、郷土を再発見し愛着や誇りを高める取組の充実

- ・社会教育課では、ジオパーク構想推進事業の一環として、神居古潭や忠和のアイヌ伝説が残る地域を案内するツアー、講座の開催など地域の自然や地形、文化の学びを通して、郷土の魅力を伝える取組を行いました。
- ・公民館では、地域資源を生かし、環境や文化、歴史等の講座の実施などを通じ、地域への愛着や関心を高める取組を進めています。
- ・彫刻美術館では、所蔵する彫刻作品を身近に鑑賞できる彫刻巡回展示を市内小中学校等で実施したほか、市民を対象に彫刻に親しむ機会として旭川彫刻散歩を実施したことなどにより、「彫刻のまち旭川」に対する意識の高揚を図りました。
- ・公民館や図書館、博物館、井上靖記念館では、収集した郷土の資料を活用した企画展の実施や、

郷土学習の支援等の活動を通じて、郷土の歴史や文化に接する機会を提供し、その魅力を再発見する取組を進めています。また、川村カ子トアイヌ記念館の展示施設のリニューアルへの支援を行いました。

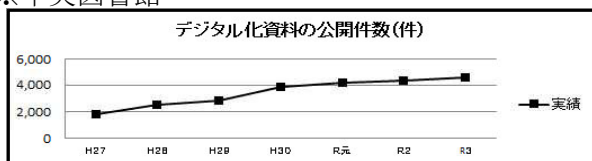
※公民館事業課



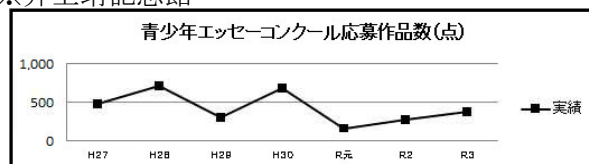
2 郷土の文化に関する情報発信の充実と理解の促進

- ・井上靖記念館では、中学生・高校生を対象とした青少年エッセーコンクールを開催し、井上靖の偉業を顕彰するとともに、青少年の文学への関心や資質を高める一助となりました。
- ・文化振興課では、旭川市教育委員会が所蔵する旭川市文化賞受賞者の絵画を旭川市ホームページで公開しています。
- ・図書館では、郷土資料を長期に保存・活用するためのデジタル化を進めており、北海道立図書館のデジタルアーカイブ公開システムと連携しながら、デジタル化した資料のインターネット公開やSNSでの情報発信を進め、市民の利便性の向上を目指しています。
- ・博物館では、アイヌ文化に関連する各種事業の実施や、旭川駅構内のアイヌ文化情報コーナー「ル・シロシ」の運営を通じ、アイヌ文化への理解を深める取組を進めました。また、例年食ベマルシェ期間に併せて実施している「アイヌ文化ふれあいまつり」については、イベントが中止となったことから、博物館でアイヌの伝統工芸品を展示したり、アイヌ古式舞踊の動画をインターネットで公開したりしました。

※中央図書館



※井上靖記念館



III 今後の課題と改善に向けた方向性

市民が郷土に愛着を持てるよう、アイヌ文化をはじめ地域に根付いた文化や、ゆかりの文化財等の魅力を発信するとともに、その成果を測る手法について検討していきます。

<5-1-1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用>

- 都市開発の進展等により消滅の危機に晒されている歴史的建造物の保存や、後継者不足である郷土芸能等の伝承については、容易に解決できるものではありませんが、市民に文化財に関する理解を深めてもらい、保存・継承を進めていくため、広く紹介・活用する機会を増やしていきます。特に優佳良織については、本市を代表する貴重な工芸品であり、その技術が継承されるよう、積極的な支援を行っていきます。
- 彫刻美術館については、文化庁からの助言・指導も求めながら重要文化財建造物としての適切な維持管理に努めるとともに、その魅力を発信するため、SNSを活用するほか、市が保有する資産を活用した教育旅行の誘致に関わるよう民間の旅行会社との連携・協議を進めます。
- 図書館が所蔵する写真資料のデジタル化は、人的・経費的な負担も大きいですが、郷土の歴史を保存する重要な取組であることから、継続して取り組むとともに、こうした郷土資料を利用して郷土愛を育む企画展示など、その活用方法と情報発信についても検討します。
- アイヌ文化の教育・普及については、他の集客力のあるイベントと併せて開催するなど、効果的な事業の促進を図っていきます。また、アイヌ語地名表示板については、設置候補地が限られてきているため、これまでの検証結果を踏まえ、今後の設置方針等について検討していきます。
- 本市には、アイヌの人々のかつての暮らしを今なお感じさせる神居古潭や嵐山、貴重な民族資

料を有する博物館や川村カ子トアイヌ記念館等があり、川村カ子トアイヌ記念館は展示施設のリニューアルに向けて、新館の基本・実施設計書が完成しました。北海道北部のアイヌ文化を積極的にアピールしていくため、これらの地域資源の一層の充実を図るとともに、「アイヌ文化を生きかすまちづくり」による魅力と活力ある地域社会の形成を目指し、アイヌ文化を活用した産業や観光の振興に取り組んでいきます。

< 5-1-2 郷土愛を育むための取組の推進 >

- ジオパーク構想関連事業において、ツアーや講座で講師を務められる者が限られており、活動が活発に行えていないことから、ガイド育成を目的としたツアーや講座にも取り組んでいきます。
- 井上靖記念館で実施している青少年エッセーコンクールは、テーマ設定により応募数が大きく増減することから、今後はより身近で親しみやすいテーマを基本に設定し、より効果的な広報を行うことで応募数の増加を図ります。
- 彫刻の巡回展示や旭川彫刻散歩については、今後も周知を図りながら、彫刻のまちづくりに対する市民の意識の向上につながる継続的な事業を展開していきます。
- 公民館では、地域の魅力を再確認することが、改めて地域への愛着を育む機会となっていることから、新しい題材や講師を発掘し、参加者のニーズの把握に努めながら、地域の特性を生かした事業を継続して実施していきます。
- 図書館では、SNSをはじめ様々な媒体を活用し、郷土資料の情報発信を充実させていきます。
- 博物館では、アイヌ文化の保存・伝承に係る各種事業が定着してきていることから、アイヌ文化情報コーナー「ル・シロシ」の運営と合わせて、引き続き、SNS等を活用した効果的な情報発信を進めていきます。

第3章 学識経験者の意見

1 意見提出者

地教法の規定による「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」として、本報告書について、次の2人の方から御意見を頂きました。

(北海道教育大学旭川校教授)

佐久間章 (札幌国際大学教授)

2 本報告書に関する御意見

頂いた御意見について、教育委員会の考え方と併せて次のとおり掲載します。

(1) 教授からの御意見

～省略～

(2) 佐久間章学科長からの御意見

「第2章 計画に基づいた点検・評価」について

御意見	教育委員会の考え方
<p>1 点検・評価全般について</p> <p>・成果指標として掲げているものは、いわゆるアウトプット(結果)となっています。一般行政と社会教育行政の違いは、文字通り「教育」であることです。教育行政である社会教育が目指すべきものは、「人づくり(住民の意識, 行動の変容)と「つながりづくり」をすすめ、最終的には、一人一人が自己実現と幸福な生活を送ることのできる「まちづくり」へとつなげていくことと思います。評価指標もこうした視点に立ち、「アウトプット」の結果としてもたらされた「アウトカム」の計測を検討し、可能なものは成果指標に位置付けるべきではないでしょうか。</p>	<p>・社会教育基本計画の点検・評価については、本市の社会教育委員からも「成果指標の見直し」や「目標値の検討」、「事実と課題の整理」を指摘されております。令和4年度に実施する社会教育基本計画の中間見直しでは、目標設定と評価指標を中心として見直すことを検討しています。</p>
<p>・評価意見の作成にあたり、昨年度の「旭川市社会教育基本計画 点検・評価報告書」と比較し概観しました。文言や表現の言い換え等により、前年度と同様の記載や方向性のみしか記載されていないといった項目も散見されます。「課題と改善に向けた方向性」の記載については、課題と方向性とを明確に分けて記載されることをご検討ください。そのことによって、評価の蓄積と可視化を実現できるものと思います。</p>	<p>・翌年度以降は、課題と改善に向けた方向性を明確に分け、具体的な取組についても記載して参ります。</p>
<p>・昨年の点検評価においても、「課題と改善に向けた方向性」が示されています。しかし、そのことについて、どのように取組、どのような結果であったのか、言わばどのように改善されたのかという点について、詳細に記載すべきではないかと思えます。現状の評価では、改善の足跡が見えず、毎年同じような曖昧な評価の繰り返しに陥ってしまうことが懸念されます。前述しましたが、今年度の「課題と改善に向けた方向性」の中には、前年度と同内容の記載項目もあります。こうした点は、前年度の学識経験者からも指摘されています。教育委員会が考え方として示したことが、履行さ</p>	<p>・事業構築に当たっては、課題分析や目標設定を明確に行うための共通のシートを作成するなど、適切なPDCAを行い、翌年度以降の事業に活かせるよう実施していきます。</p>

<p>れたのか否かについての記載こそが評価として重要なのではないのでしょうか。</p>	
<p>【基本目標1】市民一人一人の主体的な学びの機会の充実 ○現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進 ・「3 情報化に伴う ICT の利活用の促進」で記載されている「まなびネットあさひかわ」のアクセス件数が増加していることが、学習意欲の向上に繋がっていると記載されています。アクセス数が伸びた要因等の分析は行っているのでしょうか。アクセス数の増加を学習意欲の向上と判断することについては、聊か疑問です。また、「多様な方法で情報を入手できるようにした」との記載もありますが、この多様な方法とは具体的にどのような方法なのか、もっと丁寧な記載が必要ではないのでしょうか。</p>	<p>・アクセス数の増加イコール学習意欲の向上とは言い難いですが、学習への前向きな気持ちの現れであると推測しており、学習意欲向上の一助になっているものと考えております。 現行の社会教育基本計画の成果指標として「まなびネットのアクセス件数」を設定しておりますが、単にアクセス件数が「情報提供を行っている・学習機会の充実が図られている」ということでなく、情報提供等により人生における各段階で直面する課題や社会的な課題を解決できているかどうかを見取る別の指標の設定を今後の計画見直しに併せて検討していきます。 なお、「多様な方法」につきましては、紙媒体であるチラシを公民館等に設置するだけでなく、インターネットで時間や場所に関係なく情報を取得できるようにしていることを指していますので、具体的な表現に修正いたします。</p>
<p>・公民館施設内のインターネット環境の整備推進を方向性として掲げています。このことは、公民館に限らず、これからの社会教育施設にとって必須インフラと言えるのではないかと思います。一日も早い充実したインターネット環境の整備を期待します。</p>	<p>・オンラインを活用した学習スタイルに対応していくため、インターネット環境を整備し、施設の役割に応じた事業の展開を検討してまいります。</p>
<p>○ライフステージに応じた学習機会の充実 ・平成元年から文部省(現・文部科学省)主催で実施されていた全国生涯学習フェスティバルは、平成11年をもって終了しました。このことによって、同種の事業を取りやめる自治体が全国で増える中、旭川市が生涯学習フェア「まなびピアあさひかわ」を30年間継続してきたことは高く評価できます。</p>	<p>・引き続き、「まなびピアあさひかわ」や公民館で開催する文化祭等で、学習成果の発表機会や学習への参加機会、各種情報を市民に提供してまいります。</p>
<p>・社会教育課が実施する生涯学習フェアについて、実行委員会主体の実施を目指すことが方向性に記載されており、とても大切なことです。生涯学習フェアに限らず、現状の様々な事業に、市民が参画できる仕組みづくりを、ぜひ検討していただきたいと思っております。</p>	<p>・市民の参画については、各施設で活動するボランティアによる事業の企画立案や運営が中心となっています。今後も実行委員会形式や共催など様々な形で市民が参画できる仕組みづくりを行ってまいります。</p>

・公民館において参加者が少ない事業については、内容の再検討を行うことが方向性に記載されています。多くの方が参加する社会教育事業が高く評価できる事業なのか否かについては、意見の分かれるところではないでしょうか。特に、必要課題を扱う事業は、多くの参加を得るのは至難です。事業の目的を今一度考えたうえで、事業実施の可否判断を行い、必要な事業であれば内容の検討を行ってはいかががでしょうか。

・事業の目的を明確にして実施し、アンケート等でその成果を測りながら、必要課題や要求課題に対応しているかどうかを検証し、事業の見直しを行ってまいります。

○学習機会の選択を支援する情報提供の充実

・生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」の講師・指導者や団体情報の充実を図っていくことが記載されています。こうした方向性は、活用状況が伸び、利用者ニーズの高まりが背景にあるものと考えてよいのでしょうか。講師バンクについては、全国的にも課題を抱える自治体も多く、登録講師から活用されないなどの苦情も多いようです。そこで、登録講師の活用促進のためにも、指導方法やプログラムの展開等についての研修機会を設けるなど、登録講師の指導力等の向上を支援していく取り組みも検討してはいかががでしょうか。

・現サイトのシステムでは活用状況を把握できるものとはなっておらず、利用者ニーズの高まりについて把握できているものではありませんが、掲載件数が増えることで、住民の多様な学びのニーズに応えることができる可能性が増え、基本目標3「地域の学びの循環」の視点からも、学びの成果を地域に還元できる仕組みの強化が必要だと考えております。

また御指摘を踏まえ、講師・指導者向けの活動機会の提供や研修等の実施についても検討してまいります。

【基本目標2】市民の学びを支える環境の整備

○市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備

・コロナ禍において、市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備には、従前以上に課題が多いことと推察できます。旭川市には、社会教育部所管の魅力的な社会教育施設を数多く有していますが、施設間連携の視点で見ると連携事業があまり見えないように思います。施設相互の連携は、施設固有の機能を拡大させることが期待できます。このことは、市民の学習ニーズに応える環境の整備に繋がるものであり、効果的な施設間連携について検討することを期待いたします。

・SDGsなど共通テーマの下、各施設が持つ機能や特性を活かした事業を展開して施設を回遊したり、各施設が出張して事業を共同実施したりするなど、市民が学びを深めることができる仕掛けをつくるなど、学習ニーズに対応する環境の整備について検討してまいります。

○関係機関等との多様な連携による学習環境の整備

・「えほんどだっこ」については、図書館の休館日と重なることが多いため、事業の継続については、他の会場での開催を検討することが記載されています。このように、多様な関係機関と連携し、自施設内での実施のみならず積極的に市内各所、各団体へアウトリーチすることは、学習環境の整備にもつながるものと思います。市民にとって、身近なところで学習できることは、何よりも大切なことではないでしょうか。

・引き続き、他部局や学校等の機関と連携し、様々な場所で学習を提供できるよう学習環境を整備してまいります。

【基本目標3】地域における学びの循環

○市民が主体となって学習効果を還元できる環境の整備

・ボランティア活動は学習成果の活用場として極めて重要です。言わば、「学習」と「成果の活用」の好循環の仕組みを構築することが必要です。前年度の「点検・評価報告書」には記載されていたことですが、活動機会と併せて研修機会の提供も大切にしていきたいと思えます。また、現在では多様なボランティア活動の“カタチ”が事例として報告されています。施設に、集い活動するだけではなく、ICTを活用して自分の自由な時間で、施設の広報誌作成等を支援する若者のボランティアもいます。このように、これからは施設内での活動に限定するのではなく、多様なボランティアの“カタチ”を検討してはいかがでしょうか

○地域社会を担う団体や人材の育成支援

・家庭教育ナビゲーターの活躍できる場の発掘・提供および自主的な活動への働きかけが方向性として記載されています。受動的な活動を脱して、自主的に活動展開するという方向性はとても良いと思えます。そのためには、市の家庭教育に関する現状・課題についての理解が重要です。家庭教育ナビゲーターと市教委関係部署との定期的な情報の交換・共有の機会を設けてはいかがでしょうか。

○家庭、地域、学校の連携による青少年などの活動を支援する取組の充実

・「地域学校協働活動」については、モデル地域において重点的に取り組むことが記載されています。人口30万を超える旭川市では、モデル地域における試行実施と検証によってノウハウを蓄積したうえで、全市的な展開へと移行することが効果的であると思えます。ただし、地域の実態を考慮することが必要であり、細部まで全市的に統一したスキームで展開するのではなく、あくまでも地域個々の特色を生かした「地域学校協働活動」を支援していくことが大切であると思えます。

【基本目標4】市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実

○文化芸術に親しむ機会の充実

・文化会館やクリスタルホールの自主文化事業については、「低廉な価格」「購入しやすい料金設定」との記載があり、多くの市民が芸術文化に触れることができるよう価格・料金を検討していくことはとても評価で

・ボランティアが学習を続け、その成果を活用できるよう、スキルアップにつながる研修会の開催や活動機会の提供を引き続き行ってまいります。また、ボランティアは年々減少していることから、オンラインでの活動やボランティアのライフサイクルに合わせた活動ができるよう様々な可能性を模索してまいります。

・家庭教育ナビゲーターの養成や資質向上のための研修会の開催、活躍できる場所の発掘と提供に加えて、家庭教育支援に関わる部署や団体の連携組織である家庭支援プロジェクトの構成員に家庭教育ナビゲーターを加え、本市の家庭教育の現状や課題を共有し、交流する機会を設定してまいります。

・地域学校協働活動の推進については、各地域の実情に合わせた無理のない枠組みで、地域全体で子供たちの学びや成長を支えられるよう展開してまいります。

・自主文化事業については、集客力の高さや採算性を考慮しながら価格を設定した上で、幅広い分野の文化芸術に触れることができるよう引き続き実施してまいります。

きます。しかし、併せて芸術文化の価値や受益者負担の考え方についても、広く市民に理解を求めていくことも重要なことと思います。

・図書館では、市の他部局への情報提供や市民団体等への情報発信が方向性として記載されています。ミニギャラリーやキッズルームの活用を増やすために、情報提供・情報発信だけで十分なのでしょうか。もっと多角的な分析を行い、検討することが必要ではないでしょうか。

○文化芸術活動への支援

・社会教育・文化芸術事業補助金については、広報誌や SNS など様々な方法で制度の周知を強化することが記載されています。制度の周知は、前年度にも記載がありますが、これまでどのような方法を行ってきたのでしょうか。周知するために行っている現在の方法の点検が必要ではないかと思えます。また、情報提供にあたっては、あらゆる世代に届けるために、ICT のみならず従前の紙媒体を併用したハイブリットな情報提供の継続を期待します。

【基本目標 5】郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成

○郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用

・郷土の文化に愛着を持てるようにするためには、旭川市の有する文化財等の価値や魅力を情報発信することは重要なことと思います。一方、併せて社会教育事業(学習機会)による価値や魅力への「気づき」を誘発する学習も有効ではないかと思えます。

○郷土愛を育むための取組の推進

・井上靖記念館の青少年エッセーコンクールや彫刻美術館の小中学校での彫刻巡回展示など、子どもを対象とした取組は、郷土愛の育成に極めて重要であると思えます。公民館をはじめ他施設においても、次代を担う子どもたちの郷土愛を育成するための青少年事業の検討を期待します。

・利用者への情報提供に加えて、市民の学習ニーズを図書館の利用状況やアンケートから検証するとともに、絵本を活用した事業の実施など活用方法の検討を進めてまいります。

・補助金の周知については、生涯学習団体や文化芸術団体の活動拠点となる公民館でのチラシ配布や、広報誌、SNS、対象となる事業を実施している可能性がある小中学校への周知などを実施しています。今後は、新規申請団体に対し制度を知ったきっかけなどを聞き取って周知方法の参考にし、対象者に沿った媒体で周知してまいります。

・出前講座や、多くの方が集まる商業施設での展示、講座の開催により、本市の歴史や文化の魅力を再発見する機会を提供してまいります。

・社会教育施設や関係機関と連携しながら、青少年が地域や文化について知り、また、体験して、郷土愛を育むきっかけとなるような事業の実施を検討してまいります。

社会教育

基本目標 1 市民一人一人の主体的な学びの機会の充実

【成果目標 1】子育て世代や高齢期などの人生における各段階で直面する課題や社会的な課題を解決できるよう、学びに関する情報提供を行うとともに、様々な学びのニーズに応えることができるよう学習機会の充実を図る。

I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
社会的な課題やライフステージに対応した課題を解決するための講座の受講者数	社会教育課	4,100人	—	未達成	⬇
	公民館事業課	119,273人	30,370人	未達成	⬇
	中央図書館	247人	30人	未達成	⬇
	科学館	54,340人	45,793人	未達成	↔
社会教育課^{*1} 		公民館事業課 			
中央図書館 		科学館 			
成果指標 2		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
社会的な課題やライフステージに対応した課題を解決するための講座への参加者の満足度	公民館事業課	81.9%	74.3%	未達成	↔
成果指標 3		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
まなびネットあさひかわのアクセス件数	社会教育課	141,750件	122,329件	未達成	↔
成果指標 4		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
家庭教育の支援に関する講座への参加者数	公民館事業課	8,186人	1,475人	未達成	⬇

*1 R 2, 3は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から調査未実施

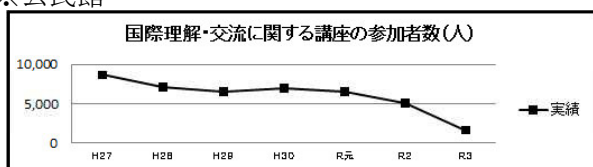
【基本施策 1 - 1 多様なニーズに対応した学習機会、学習情報の提供】

主な取組 1 - 1 - 1 現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進

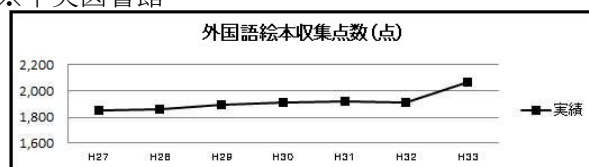
1 国際化に伴う異なる文化・習慣への理解の促進

- ・社会教育課では、生涯学習フェアを開催し、都市交流課と連携して、国際交流員が外国の文化を紹介する講座を実施しました。
- ・公民館では、JICA等と連携して、アフリカでの支援事業やコスタリカの文化や言語に触れる講座を実施し、子どもから高齢者までが国際交流に関心を持つきっかけとなる学習機会を提供しました。
- ・図書館では、様々な言語の外国語絵本の収集・提供と、外国の言語や文化をテーマにした事業の開催により、国際理解を深める機会を提供しました。

※公民館



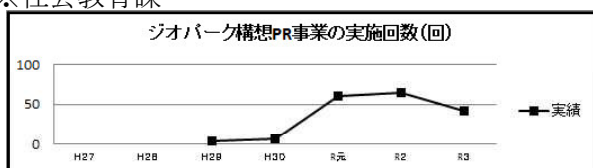
※中央図書館



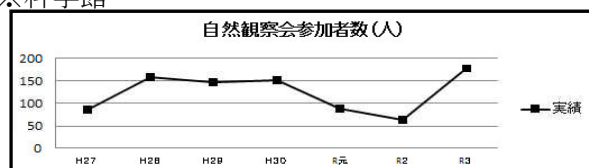
2 身の周りや地球規模での資源・環境問題への理解の促進

- ・社会教育課では、ジオパーク構想の推進を目指し、地域の地質や地形を題材とした小中学校での出前授業や公民館での講座、ツアー等を実施しました。
- ・公民館では、環境アドバイザーや森林管理を担うNPO法人等との連携・協力により、特定外来種の生態から環境破壊を考える講座や食品ロスをなくすための料理講座などSDGsを意識した講座を開催し、資源や環境に関する理解や啓発を図りました。
- ・科学館では、身近な自然の中での活動を通じて自然の不思議さや大切さ等を幅広い年齢層に学んでもらうため、サケ遡上観察会や河原での石拾い、ウチダザリガニ捕獲体験や、常設展示を利用したクイズなどを通して、自然環境や生命の大切さ、大地の成り立ちと人の暮らしを実感する機会を提供しました。また、令和3年度に導入したデジタル地球儀を用いて、環境保全・問題への情報提供や学習機会を設けました。

※社会教育課



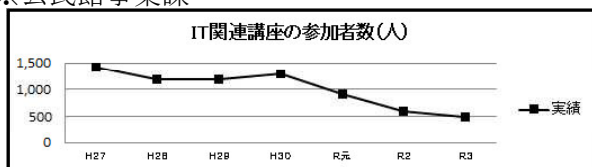
※科学館



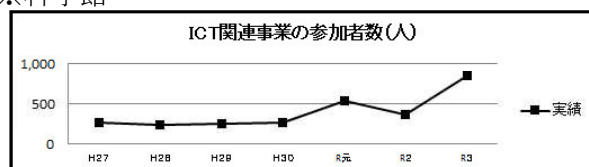
3 情報化に伴うICTの利活用の促進

- ・社会教育課では、市民がインターネットを使用して生涯学習に関する講座やイベント情報、講師情報及び施設情報を得られる生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」の運用により、施設へのチラシ設置だけでなく、いつでもどこでも情報を入手できるようにしています。
- ・公民館では、市民がICTを活用できるよう、文書作成等を学ぶパソコン講座や、スマートフォンの使い方を学ぶ講座を実施し、知識や技術を習得するための学習機会を提供しました。
- ・科学館では、ICTを利活用できるよう、青少年が基礎を学ぶ科学館クラブ（パソコン教室）や、基礎から応用までを学ぶプログラミング講座、成人向けのパソコン基礎講座等を開催し、基礎や情報収集の方法を学ぶことで、表現・発信する能力を養う機会を提供しました。

※公民館事業課



※科学館

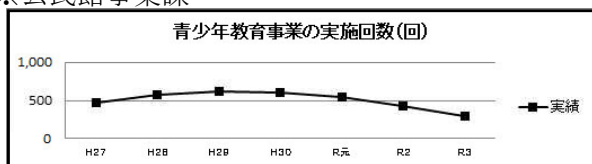


主な取組 1-1-2 ライフステージに応じた学習機会の充実

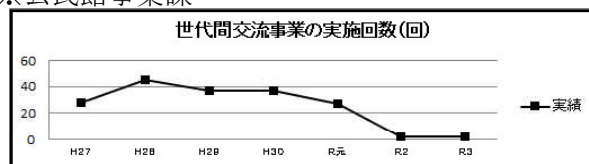
1 幼児、青少年期の生きる力を身に付ける学習機会の提供

- ・彫刻美術館では、「こども彫刻教室」を開催し、小学生が造形活動を通して楽しみながら芸術に親しみ、彫刻に興味を持ってもらう機会を提供しました。
- ・公民館では、自然や地域の特色を取り入れたものづくりや自然体験等の講座を実施したほか、学習支援事業及び子ども食堂への支援や、青少年と高齢者を中心とした世代間交流を行い、青少年が様々な知識や経験を身に付けるとともに、新しい価値観の習得や思いやりの心を育む機会を提供しました。
- ・図書館では、絵本の読み聞かせボランティアとの連携・協力により、絵本の読み聞かせやお楽しみ会を開催し、読書活動により子どもたちが表現力や想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付ける機会を提供しました。
- ・博物館では、郷土への愛着と誇りを育むため、学校等の団体を受け入れており、博物館で体験・学習できるメニューをインターネットで周知し、学習が充実するよう学校などへ働きかけながら、郷土学習の機会を提供しています。

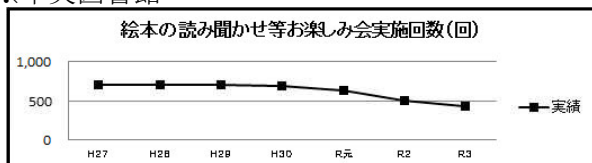
※公民館事業課



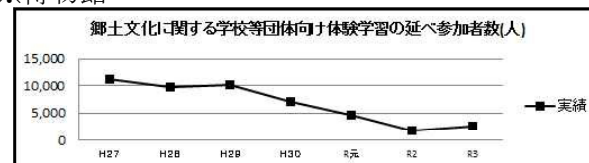
※公民館事業課



※中央図書館



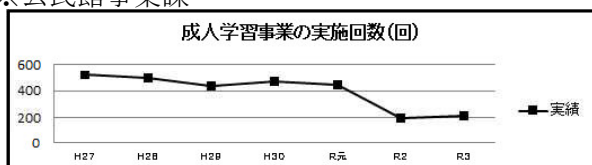
※博物館



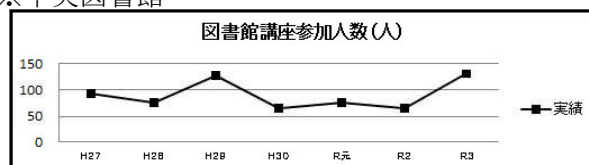
2 成人期のキャリアアップや趣味、教養に関する学習機会の提供

- ・社会教育課では、生涯学習フェアを開催し、市内で活動する団体やサークルの発表の機会をつくとともに、その発表を通じて市民に学習機会を提供しました。
- ・公民館では、地域包括支援センターや市内の大学等と連携するとともに、ボランティアの協力を得ながら、保健・医療・介護・食・ICTに関する学習や消費者トラブルに関する法律知識など多様な分野で趣味や教養に関する講座を実施しました。
- ・図書館では、北海道内の高等教育機関等と連携して様々な講座を開催し、参加者のキャリアアップや趣味、教養に関する学習機会を提供しました。
- ・彫刻美術館では、旭川彫刻フェスタにおいて、市民等で構成される実行委員会を組織し、これまでの活動実績などを紹介する動画コンテンツを制作しました。

※公民館事業課



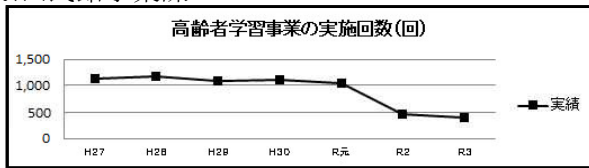
※中央図書館



3 高齢期の生きがいづくりなどに関する学習機会の提供

- ・公民館では、年間カリキュラムに基づき各公民館の百寿大学やシニア大学を中心に、高齢者が社会と関わりを持ちながら豊かに人生を過ごせるよう、高齢者の仲間づくりとともに、一般教養や軽スポーツ等の講座を実施しました。

※公民館事業課

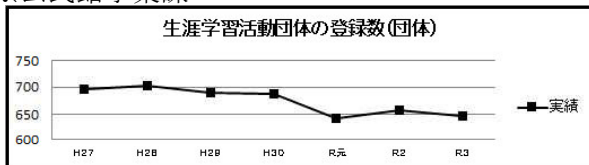


主な取組 1-1-3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実

1 講師情報や活動団体に関する情報の提供

- ・社会教育課では、生涯学習フェアにおいて、市の各部局の行政情報や市民団体の活動報告等、様々な情報発信の機会を提供するとともに、生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」において、講師・指導者や団体の情報を提供しました。また、講師等から提供された家庭教育等に関する具体的な指導プログラムを掲載した「あさひかわ学びの応援講座」を作成し、小中学校や子育て支援センターなどに配布しました。
- ・公民館では、公民館を拠点に生涯学習活動を行う団体の情報を、インターネットで紹介するとともに、館内掲示や公民館だより等の紙媒体で情報発信を行い、市民の学習機会の選択支援と生涯学習活動への参加意欲の喚起を図りました。

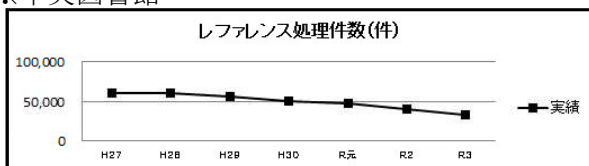
※公民館事業課



2 課題解決を支援する各種情報の提供

- ・社会教育課では、市が行う様々な事務・業務や専門的知識を市職員等が出向いて広く伝え、市民に学習機会を提供する出前講座を「あさひかわ学びの応援講座」に掲載し、インターネットや紙媒体で周知しながら実施し、市民の学習活動を支援しました。
- ・図書館では、市民が学習活動を進める上で必要となる資料の検索・提供等を通じて市民へのレファレンスサービスを行い、図書館でしか提供できない資料や情報による課題解決を支援しました。

※中央図書館



【基本施策 1-2 子育てをする家庭の教育力の向上】

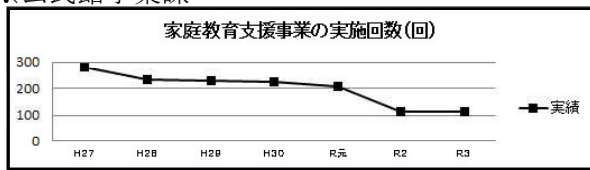
主な取組 1-2-1 親や保護者の育ちを支援する取組の充実

1 家庭教育に関する学習機会の充実

- ・社会教育課では、家庭教育について学ぶ団体が行う自主的な活動への補助金の整備や、地域の講師や団体、企業等の協力を得て保護者が研修会を行おうとする際に具体的なプログラムとして活用できる、「あさひかわ学びの応援講座」を作成しました。

- ・公民館では、農業体験や料理、工作等、親子と一緒に体験する講座を実施し、体験の大切さについて学習する機会や、保護者同士の交流を通して日頃の家庭教育を振り返る機会を提供しました。
- ・図書館では、保護者や子どもにかかわる大人を対象に、絵本の楽しさを伝える方法や読み聞かせの技術等を学習する講座を実施しました。

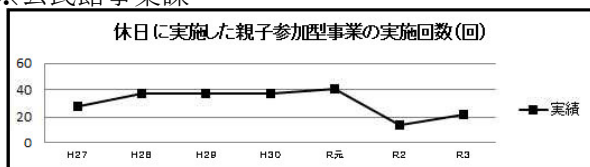
※公民館事業課



2 父親の家庭教育への参加を支援する取組の充実

- ・社会教育課では、PTA連合会へ補助金を交付するとともに、学習プログラムを提供し、連合会が実施する保護者同士の交流や家庭教育への理解を深める活動を継続的に支援しています。
- ・公民館では、親子と一緒に体験する事業を父親も参加しやすい土曜日や日曜日に開催し、ウチダザリガニの捕獲や昆虫採集、農産物の収穫、薪での炊飯等を通して、体験の大切さについて学習する機会を提供しました。

※公民館事業課



主な取組 1-2-2 親や保護者を孤立させない環境の整備

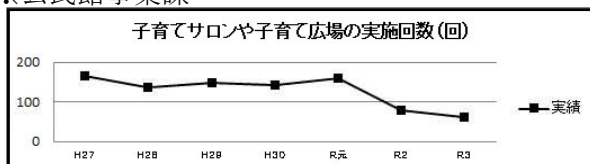
1 交流会やサークル情報等の提供

- ・社会教育課では、旭川市家庭教育支援プロジェクトを通して、市の各部局等で実施している子育てや家庭教育に関する情報を集約した家庭教育・子育て行事等カレンダーを作成し、インターネットでの発信や市有施設等で配布を行い、広く情報提供を行いました。
- ・公民館では、子育てに関する講座や育児サークルの情報をインターネット等で発信し、保護者の交流の機会に関する情報提供を行いました。

2 子育て中の親や保護者のネットワークづくりの支援

- ・公民館では、地域の民生委員児童委員連絡協議会等と連携して、子育てサロンや子育て広場を開設し、子育て中の保護者や妊婦が孤立することがないように相談に応じるほか、保護者同士の交流の機会として、子育てを支援しました。

※公民館事業課



III 今後の課題と改善に向けた方向性

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年に引き続き、施設の休館や、予定していた事業・イベント等を中止・規模縮小したものがあり、全体を通じて参加者数等は例年より減少していますが、コロナ禍であっても学習機会が失われることのないよう、事業やイベントをオンラインや人数を制限して実施するなど、「3密」を回避した形で開催しました。引き続き、事業の在り方や実施方法を検討し、内容の見直しを行っていきます。

さらに、各事業の実施に当たっては、事業終了時に、目標や目的に見合った事業であったかについて、参加者にアンケートを実施するなど、事業を通じた市民の意識や行動の変容を把握していくとともに、成果目標にある「市民が人生の各段階で直面する課題や社会的な課題を解決できる」かどうかを視点を持ちながら事業の在り方を検討していきます。

<1-1-1 現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進>

- 社会教育課では、**広域なジオパーク構想地域にも関わらず、特定の場所での事業が多くなっており、今後市民の学びの幅を広げるためにも、近隣町や関係団体と連携しながら、活動内容の充実を図っていきます。**

生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」の利活用が進むよう、引き続き、広報誌等で周知するほか、SNSを活用するなど、様々な周知方法を検討していきます。

- 公民館では、外国語や異文化の学習を通して国際理解を深め、国際交流に関心を持つきっかけとなるよう、都市交流課や国際交流関係団体など関係機関のノウハウを活用しながら、市民の関心の高いテーマで講座を実施していきます。

資源・環境問題に関する講座は、身近な資源・環境に関するものから、地球規模の環境に関するものまで幅広く実施し、SDGsや持続可能な社会づくりについて考えるきっかけとなるよう、講座内容を検討していきます。

ICT関連講座の需要は高いですが、文書作成等の基本操作が中心となっており、トラブル防止や利用者モラル啓発など現代的課題、オンラインを活用した学習スタイルへの対応も必要であることから、施設内のインターネット環境の整備を進めるとともに、ボランティア講師や生涯学習活動団体などとの連携に努めていきます。

- 図書館では、読書活動による国際理解の推進を図るため、外国語絵本を通して、その国の生活や文化に興味を持ってもらえるよう、様々な言語の外国語絵本の収集を進めるとともに、市内在住の外国人や、ボランティアサークル等と連携しながら、原語と日本語による読み聞かせ会などを開催していきます。
- 科学館では、**SDGsの中でも特に環境問題の理解を深めるため、引き続き、地域の自然や資源を活用した体験や講座を開催していきます。今後は、市民が自発的に学習を深め、その成果を還元できるよう、科学を学ぶ機会の提供を進めていきます。**

<1-1-2 ライフステージに応じた学習機会の充実>

- 社会教育課が実施する生涯学習フェアでは、多様な世代が楽しみながら学習できる体験や学習成果を発表する機会を提供していますが、今後、参加団体等で構成する実行委員会が主体の実施を目指して、フェアの企画立案や運営に関わる仕組みづくりを行います。

- 彫刻美術館の「こども彫刻教室」については、今後も彫刻についての理解を深めてもらうため、単発の講座だけではなく、より効果的な講座の在り方を検討するほか、完成作品を彫刻美術館本館やステーションギャラリーで展示するなどの工夫をしながら、継続的に実施します。また、旭川彫刻フェスタについては、事業の恒常化等が指摘されているため、事業の見直しについて実行委員会で検討していきます。

- 公民館における青少年教育や成人学習に関する事業のうち参加者が少ない事業については、より対象者の興味・関心に沿った講座となるよう内容の再検討を行います。

世代間交流事業については、子どもと高齢者等異世代が交流する重要な機会であることから、引き続き、学校などと連携し、内容を見直しながら事業の充実を図ります。

高齢者学習については、健康で豊かな生活を送るための趣味や軽スポーツ等に関する講座の需要が高いことから、今後も高齢者の生きがいつくりや心身の健康維持を図るとともに、その学習成果を地域に還元する仕組みづくりについて、地域包括支援センターなどの関係機関と連携しながら実施していきます。

- 図書館では、「絵本の読み聞かせ等お楽しみ会」について、**図書館以外の場でも子どもたちが本に親しむ機会を提供するため**、参加者増に向けた情報発信の方法を検討するほか、地域等への絵本の読み聞かせボランティアの派遣**などを行っていきます**。

成人向けの講座は、図書館の利用促進のほか、参加者のキャリアアップや趣味、教養に関する学習機会となるよう、アンケート等を通じて社会の動向や市民の学習ニーズを把握し、それらを参考にテーマや講師の選定を進めます。

- 博物館では、**事業内容の充実や、郷土の歴史への興味を高めるために**、学校等へのアンケートを通して青少年が学びたいテーマを把握し、事業内容を充実させるとともに、郷土の歴史にどう興味を持たせるかについて検討します。

<1-1-3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実>

- 社会教育課では、生涯学習フェアが様々な団体の活動紹介の場として利用されていることから、開催期間の延長や複数会場での開催、オンラインによる情報提供を継続するなど、様々な方法で広く情報提供を行います。

生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」については、講師・指導者や団体の情報のさらなる充実を図っていきます。

また、市や民間団体による学習会、体験会情報を掲載する「あさひかわ学びの応援講座」は、多くの団体等に活用してもらうため、広報誌など様々な方法で周知します。

- 公民館では、インターネットや公民館だよりにおいて、公民館を拠点に様々な活動に取り組む団体・サークルの情報を積極的に発信するとともに、公民館の利用者やその他の市民に団体・サークルの活動を紹介するなど、それぞれの学習ニーズに合った情報を提供していきます。また、地域への協力を希望する団体の情報を、小中学校等へ提供しコーディネートしていくなど地域学校協働活動の拠点としての役割を果たしていきます。
- 図書館では、レファレンスサービス充実のため、担当職員の育成・スキルアップや資料の充実・更新に努めていきます。

<1-2-1 親や保護者の育ちを支援する取組の充実>

- 社会教育課では、「あさひかわ学びの応援講座」の効果を評価・検証しながら掲載情報の充実を図っていきます。

家庭教育ナビゲーターを活用した取組である「学びカフェ」については、保護者が子育てや家庭教育に関する情報に触れるきっかけとなるよう、生涯学習フェアをはじめ、多くの保護者と子どもが集まるイベント会場に設けるなど、実施方法を検討していきます。

P T A連合会への補助金やプログラム提供を継続することで、連合会が行う保護者の交流や学習の活動を支援していきます。

- 公民館では、地域の団体やボランティア等と連携し、保護者に学習する機会や場を提供していきます。さらに、父親が積極的に家庭教育に関わるための講座を実施します。
- 図書館では、家庭での読書活動の推進のため、市民の家庭教育に関する課題を解決へと導く講師の選定・確保、内部講師の育成等で講座・講演会を充実させていきます。

<1-2-2 親や保護者を孤立させない環境の整備>

- 社会教育課では、保護者の孤立化を防止するためには地域人材との協働が必要なため、養成した家庭教育ナビゲーターが自主的に「学びカフェ」を企画実施して活躍できるような機会を提供し、自主的な活動につながっていくよう働きかけます。
- 公民館の子育てサロンや子育て広場については、毎回多くの子育て中の保護者や妊婦が参加していることから、今後も自由に参加ができ、お互いに相談や交流のできる場の提供を継続するとともに、インターネットや公民館だより等で積極的に情報発信していきます。

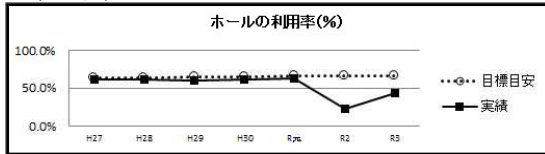
社会教育 基本目標 2 市民の学びを支える環境の整備

【成果目標 2】社会の変化や新たなニーズに応じた施設運営や本市の特性を生かした事業を展開するなど、市民が学習しやすい環境を整備する。

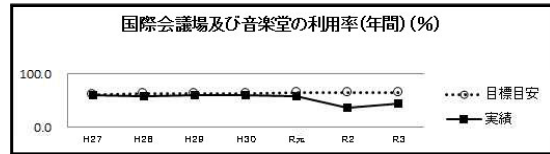
I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
社会教育施設（社会教育部所管）の利用率又は利用者数 ^{*1}	文化会館	66.4%	42.7%	未達成	↘
	クリスタルホール	65.8%	44.4%	未達成	↘
	彫刻美術館	10,968人	4,131人	未達成	↘
	公民館事業課	714,806人	337,660人	未達成	↘
	中央図書館	500,000人	319,217人	未達成	↘
	科学館	280,000人	141,724人	未達成	↘
	博物館	25,000人	14,342人	未達成	↘

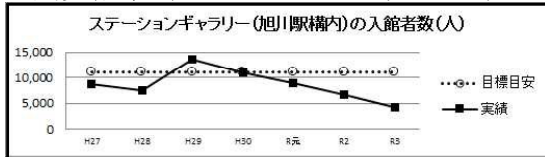
文化会館



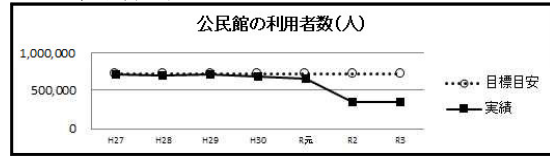
クリスタルホール



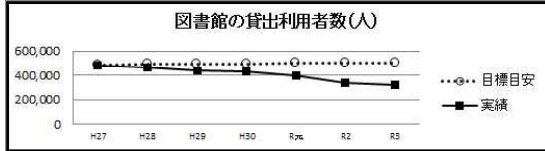
彫刻美術館（ステーションギャラリー）



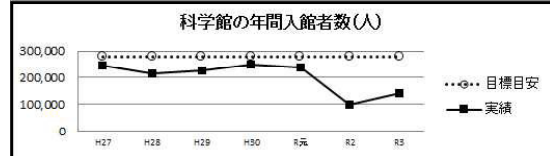
公民館事業課



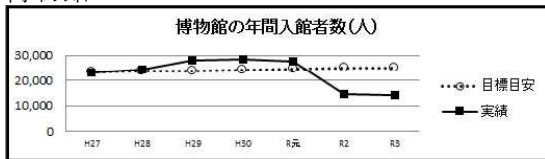
中央図書館



科学館



博物館



成果指標 2

成果指標 2		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
社会教育施設を利用しやすいと感じる市民の割合	公民館事業課	66.1%	60.5%	未達成	↘



*1 彫刻美術館は、計画策定時に本館休館中のため、ステーションギャラリーの入館者数

成果指標 3		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較																								
地域の特色を生かした事業への参加者数	公民館事業課	332人	1,217人	達成	—																								
<p>地域の特色を生かした事業への参加者数(人)</p> <table border="1"> <caption>地域の特色を生かした事業への参加者数(人)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>目標目安</th><th>実績</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H27</td><td>332</td><td>1,217</td></tr> <tr><td>H28</td><td>332</td><td>1,217</td></tr> <tr><td>H29</td><td>332</td><td>1,217</td></tr> <tr><td>H30</td><td>332</td><td>1,217</td></tr> <tr><td>R元</td><td>332</td><td>1,217</td></tr> <tr><td>R2</td><td>332</td><td>1,217</td></tr> <tr><td>R3</td><td>332</td><td>1,217</td></tr> </tbody> </table>						年度	目標目安	実績	H27	332	1,217	H28	332	1,217	H29	332	1,217	H30	332	1,217	R元	332	1,217	R2	332	1,217	R3	332	1,217
年度	目標目安	実績																											
H27	332	1,217																											
H28	332	1,217																											
H29	332	1,217																											
H30	332	1,217																											
R元	332	1,217																											
R2	332	1,217																											
R3	332	1,217																											
成果指標 4		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較																								
高等教育機関等との連携による事業実施回数	社会教育課	6回	7回	達成	—																								
	公民館事業課	98回	66回	未達成	⬇																								
	中央図書館	3回	5回	達成	—																								
社会教育課		<p>旭川ウェルビーイング・コンソーシアムとの連携による事業実施回数(回)</p> <table border="1"> <caption>旭川ウェルビーイング・コンソーシアムとの連携による事業実施回数(回)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>目標目安</th><th>実績</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H27</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>H28</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>H29</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>H30</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>R元</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>R2</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>R3</td><td>6</td><td>7</td></tr> </tbody> </table>				年度	目標目安	実績	H27	6	7	H28	6	7	H29	6	7	H30	6	7	R元	6	7	R2	6	7	R3	6	7
年度	目標目安	実績																											
H27	6	7																											
H28	6	7																											
H29	6	7																											
H30	6	7																											
R元	6	7																											
R2	6	7																											
R3	6	7																											
公民館事業課		<p>高等教育機関と連携した講座の実施回数(回)</p> <table border="1"> <caption>高等教育機関と連携した講座の実施回数(回)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>目標目安</th><th>実績</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H27</td><td>98</td><td>66</td></tr> <tr><td>H28</td><td>98</td><td>66</td></tr> <tr><td>H29</td><td>98</td><td>66</td></tr> <tr><td>H30</td><td>98</td><td>66</td></tr> <tr><td>R元</td><td>98</td><td>66</td></tr> <tr><td>R2</td><td>98</td><td>66</td></tr> <tr><td>R3</td><td>98</td><td>66</td></tr> </tbody> </table>				年度	目標目安	実績	H27	98	66	H28	98	66	H29	98	66	H30	98	66	R元	98	66	R2	98	66	R3	98	66
年度	目標目安	実績																											
H27	98	66																											
H28	98	66																											
H29	98	66																											
H30	98	66																											
R元	98	66																											
R2	98	66																											
R3	98	66																											
中央図書館		<p>図書館講座及び大学図書館と連携した職員研修の実施回数(回)</p> <table border="1"> <caption>図書館講座及び大学図書館と連携した職員研修の実施回数(回)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>目標目安</th><th>実績</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H27</td><td>3</td><td>5</td></tr> <tr><td>H28</td><td>3</td><td>5</td></tr> <tr><td>H29</td><td>3</td><td>5</td></tr> <tr><td>H30</td><td>3</td><td>5</td></tr> <tr><td>R元</td><td>3</td><td>5</td></tr> <tr><td>R2</td><td>3</td><td>5</td></tr> <tr><td>R3</td><td>3</td><td>5</td></tr> </tbody> </table>				年度	目標目安	実績	H27	3	5	H28	3	5	H29	3	5	H30	3	5	R元	3	5	R2	3	5	R3	3	5
年度	目標目安	実績																											
H27	3	5																											
H28	3	5																											
H29	3	5																											
H30	3	5																											
R元	3	5																											
R2	3	5																											
R3	3	5																											

II 取組の状況

【基本施策 2-1 施設運営や事業展開に工夫を凝らした学習しやすい環境の整備】

主な取組 2-1-1 市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備

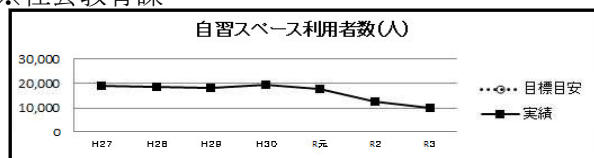
1 市民の学習ニーズを反映した社会教育施設の運営

- ・社会教育課では、市中心部の買物公園に面した商業施設内において、学生等が自由に利用できる「自習スペース」を運営しており、コロナ禍にあっては座席数を減らすなどの感染予防対策を講じながら、利用者ニーズに応じています。
- ・文化振興課では、平成30年8月に上川倉庫蔵囲夢内に開設した市民ギャラリーをはじめ、文学資料館、井上靖記念館等の各施設の管理運営を行い、文化団体の作品展示や、旭川市にゆかりの深い文学について学習する読書会など、アンケートで学習ニーズを確認しながら継続的な学習の機会を提供しました。
- ・文化会館や公会堂、クリスタルホールでは、施設運営に係る業務を民間に委託し効率的な運営を行っています。また、館内設備の修繕等を行いながら、利用しやすい環境の整備に努めました。
- ・彫刻美術館では、彫刻美術館本館とステーションギャラリーの2館における常設展及び企画展や外部機関との連携、ギャラリートーク、ワークショップの開催等を通して「彫刻のまち旭川」の魅力を発信しました。ステーションギャラリーでは、織田コレクションの展示や若者の発表の場として大学生作品展を開催するなど、彫刻にとらわれない文化芸術の発信拠点として活用を図りました。
- ・公民館では、利用者アンケートや地域住民と公民館の運営について協議する公民館フォーラムを通してニーズを把握しながら適切な管理運営を行うとともに、一部の公民館では地域で組織する団体の指定管理者制度による運営を行っています。
- ・図書館では、市民が利用しやすく快適に過ごせる読書環境の整備・充実、施設管理を行いました。

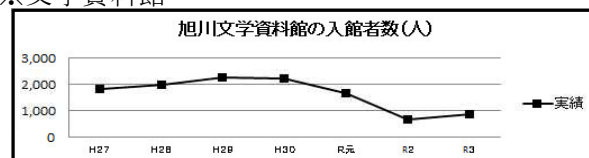
また、高齢者や障がい者を含む様々な市民の学習ニーズに応えるため、図書館資料の収集やインターネット予約制度のほか、ボランティアの協力も得て、図書宅配サービス、障がい者向けの音訳サービスなどにも継続的に取り組みました。

- ・科学館では、引き続き、自然科学の知識・情報を得るという市民ニーズに応えられるよう、各年代に応じた自然科学やものづくりなど多様なテーマの事業を企画実施しています。
- ・博物館では引き続き、アンケートを行うなど市民の学習ニーズの把握に努めながら各種体験学習や企画展を実施しています。

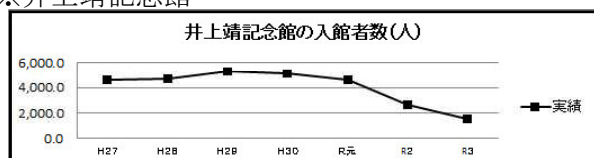
※社会教育課



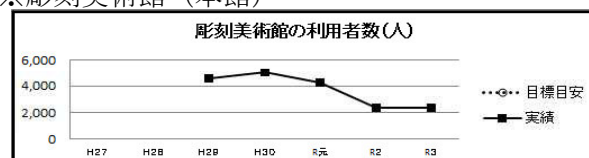
※文学資料館



※井上靖記念館



※彫刻美術館（本館）^{*1}



2 誰もが利用しやすい社会教育施設の整備

- ・各施設では、緊急事態宣言等に伴う臨時休館や、感染症予防対策（消毒や換気の徹底、来館者への情報提供など）を行い、安心安全に利用できる環境づくりに取り組みました。
- ・常磐館や井上靖記念館では、設備の修繕を行うことで、安全な利用環境を整備しました。
- ・文化会館・公会堂やクリスタルホールでは、安全かつ安定した運営に当たり、優先度や経済性等を考慮しながら、施設の機能維持のために必要な整備を行いました。文化会館小ホールのどんちょう落下の事故があり、人的被害はありませんでしたが、どんちょうの点検や修繕により、大ホールの利用を一時中止しました。
- ・公民館は、団体利用を基本とする施設ですが、地域住民が気軽に利用でき、交流できる場として、卓球・囲碁・ミニテニス等の施設開放事業を実施しました。また、施設利用者の安全性や快適性を確保するため、施設・設備の改修や整備を行いました。
- ・中央図書館では、小中学校の夏休み期間に、通常は休館日である月曜日を開館したほか、開館時間を延長するなど、多様な生活形態の市民が利用しやすい施設となるような取組を継続しています。
- ・科学館では、寄附金活用事業を活用して、市民がものづくりに利用できるデジタル工作機械等を備えた「テック・ラボ」を開設したほか、設備更新を行いました。
- ・博物館では、アイヌ文化を保存・伝承し、市民の学習の場として重要な役割を持つアイヌ文化の森・伝承のコタンにあるアイヌの住居「チセ」1棟を、次年度の建替に向けて解体するとともに柱材等の資源調達、乾燥、加工などを行いました。

3 社会教育施設の拠点機能の充実

- ・公民館では、事務局として、地域まちづくり推進協議会の運営支援に参画することで、地域課題を把握し、地域に根ざした公民館運営を行うことができました。
- ・図書館では、貸出、予約、レファレンス状況等の読書傾向から市民の学習ニーズを把握し、中央図書館・地区図書館・分室・自動車文庫等の連携により、市民が最寄りの図書館・分室でサービスを受けることができる環境となっており、各施設には司書を配置し、読書機会の提供や学習活動の支援を行っています。また、中央図書館での開館時間の拡充は、利用者の利便性向上に資することができました。

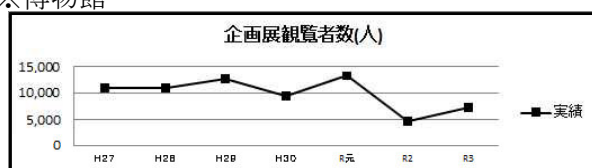
*1 H29は10月8日以降の数

主な取組 2-1-2 関係機関等との多様な連携による学習環境の整備

1 高等教育機関等との連携による高度な学習機会の提供

- ・社会教育課では、引き続き、市内の高等教育機関の連携機関である旭川ウェルビーイング・コンソーシアムとの共催で旭川オープンカレッジを実施したほか、放送大学との連携により、生涯学習フェアにおいて講演会を開催し、市民に学習機会を提供しました。
- ・公民館では、高等教育機関等の協力のもと、各機関の持つ高い専門性や幅広い分野でのノウハウを生かし、旭川全域や一部地域における特色ある環境・文化・歴史等の資源に関する講座を展開しました。
- ・図書館では、北海道内の高等教育機関等と連携して講座を開催し、高度な学習機会を提供することで、参加者の読書活動推進につながりました。
- ・博物館では、北海道内の高等教育機関と連携した連続講座「アイヌの言語と文化」を開催し、市民に専門分野の学習機会を提供するとともに、企画展をそれぞれ違ったテーマで開催しました。

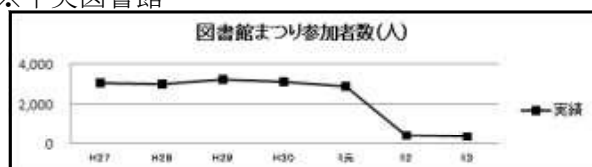
※博物館



2 社会教育関係団体等との連携による特性を生かした学習機会の提供

- ・社会教育課が開催した生涯学習フェアでは、身近な環境問題について考える団体や旭川の魅力を伝える団体等がパネル展や作品展を展開したほか、第30回記念講演会において旭川の魅力を様々な分野の専門家が講演し、市民が学びを深めました。
- ・文学資料館では、文学資料友の会との協働により各種企画展を実施し、広く地域ゆかりの文学を学習する機会を提供しました。また、収集資料をデータ化し、誰でも検索できるようにしています。
- ・公民館では、NPO法人や生涯学習団体など様々な分野の団体等と共催又は連携をしながら、旭川市の自然・歴史・産業・文化等の特色あるテーマについての講座を開催し、幅広い世代に学習機会を提供することができました。
- ・図書館では、引き続き、図書館ボランティアの協力を得て、図書館まつりや絵本の読み聞かせ等を実施し、幅広い世代に図書館や読書に親しんでもらう機会を提供しました。

※中央図書館



3 市長部局との積極的な連携による学習機会の提供

- ・社会教育課では、市の各部局と連携し、市職員や関係団体の職員等を講師として派遣する出前講座の情報をまとめた冊子「あさひかわ学びの応援講座」を支所や市有施設に配布し、多様な学習機会を提供しました。また、地域学校協働活動を実施し、子どもたちが地域住民から学ぶ機会をコーディネートしました。
- ・公民館では、市の各部局との事業共催や講師派遣により、行政機関のノウハウを生かした農業・環境等多岐にわたる分野で学習機会を提供することができました。
- ・図書館では、市の各部局と連携した企画パネル展示の会場として活用してもらい、市民に様々な情報を提供しました。

Ⅲ 今後の課題と改善に向けた方向性

事業を通して、市民が主体的に学んでいるかどうかという成果を把握する手法を検討しながら、市民が学習しやすい環境を整備していきます。

＜2-1-1 市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備＞

各社会教育施設では、感染症拡大防止のため様々な対策を行ってきましたが、今後も安心安全に利用できるよう、状況に応じた施設の運営形態や利用方法を検討していきます。

- 社会教育課が管理する「自習スペース」は学生を中心に多くの利用があるため、引き続き感染症拡大防止対策を講じながら、利用者ニーズに応じた適切な運営を行っていきます。
- 文学資料館では、**文学に興味を持つ方の利用が主となっているため**、旭川ゆかりの漫画家の展示や資料館以外での展示といった、新たな展示内容や方法を実施していきます。
- 常磐館内の文学資料館では、市民団体との協働により資料の整理を進めながら、旭川の文化の豊かさを周知する事業を継続します。施設の管理については、常磐館は老朽化が著しく、バリアフリー面や構造面で多くの課題を抱えているため、必要な施設整備を行うとともに、機能の移転等に向けて検討を進めていきます。
- 文化会館及び公会堂については、**ホール利用率の向上が必要であることから**、これまでの利用状況を精査して利用者ニーズの把握や利用しやすい環境整備の方向性を検討しながら、計画的かつ経済的な施設の運用及び補修等を進めていきます。
- クリスタルホールについては、建物などの老朽化が進んで**おり**、利用者の安全確保と文化ホールとしての機能の維持が**必要である**ため、長期的な施設補修計画を立て、設備の整備や機器の更新を行っていきます。
- 彫刻美術館では、引き続き、分館であるステーションギャラリーと連動した魅力ある企画展の実施や、外部機関との連携により「彫刻のまち旭川」の情報発信の場として機能強化を図っていきます。
- 公民館では、老朽化している施設の状況や、施設利用に当たってのニーズを把握し、予防的な改修・修繕等の計画的な実施と学習ニーズに合わせた運営をするとともに、将来の施設運営のあり方について、引き続き、検討を行います。
公民館利用のきっかけとなる施設開放事業については、内容を検討しながら継続するほか、地域まちづくり推進協議会における協議内容等を踏まえ、地域課題の解決の一助となるような活動を継続していきます。
- 図書館では、施設の老朽化等に対し、長期的かつ計画的な保守・補修を進めていきます。
図書館資料については、ウィズコロナ時代の新しい生活様式への対応や障がいのある方等の読書環境の充実を図るため、電子書籍サービスの導入・整備を進めていきます。
中央図書館では、小中学校の夏冬休み期間の月曜開館や開館時間の拡大について、利用拡大につながるよう周知に努めます。
- 科学館では、**幅広い世代を対象として科学技術や身近な自然科学について学ぶ機会を提供しており、多くの方が参加している一方、単発的な事業が主であるため、参加者自らが継続的・発展的に学びを深めることへのサポートを行う仕組みづくりにまで至っていません**。市民の期待に応えられるような企画内容・質・規模の催事を継続的に実施するため、高等教育機関、企業、団体等との連携の強化を行っていきます。また、広報活動やSNSの活用等、科学館の取組に関する情報発信を強化し、市民の学習ニーズに応えられる施設運営を行います。
施設や設備の老朽化に対しては、引き続き緊急性の高いものから順次修繕を行い、快適な学習環境となるよう整備します。
- 博物館では、**今後も時宜を得た企画展の開催や普及活動の充実のため**、アンケート等により市民の学習ニーズの把握に努めながら、**学習環境の整備に取り組んでいきます**。
- これらの各社会教育施設やその他の関係施設が相互に連携し、市民が各施設を回遊することにつながるような仕組みの定着を進めます。

＜2-1-2 関係機関等との多様な連携による学習環境の整備＞

- 社会教育課が高等教育機関と連携して行う講座では、参加者が高齢化や固定化しているものもあることから、参加しやすいよう講座を土・日曜日にも開催するとともに、アンケートを引き続き行うなど参加者層やその成果について検証します。

市長部局との連携では、多くの市民が身近な課題に関する学習機会を得ることができるよう、効果的な配付場所を検討しながら、「あさひかわ学びの応援講座」の周知冊子を広く提供していきます。

- 文学資料館については、引き続き、市民団体と連携して資料整理を着実に進めるとともに、来場者へのアンケート等により市民の学習ニーズを把握しながら企画展を開催するなど、旭川の文学を広く市民へ紹介していきます。
- 公民館では、高等教育機関の講師による専門分野の講座は参加者から好評であることから、市内高等教育機関との連携を深め、各専門分野のノウハウを生かした講座や学生との連携講座を継続して実施していきます。

また、幅広い世代に、郷土学習など様々な分野での学習機会を提供するため、多様な社会教育関係団体等と連携し、定期的及び時宜を得た事業を展開していきます。

- 図書館では、高等教育機関等と連携した講座について、講師の選定、開催日時に配慮し、図書館の利用拡大につながるような新鮮なテーマを取り入れるなど、多くの市民が興味を持てるような内容とします。また、より多くの市民に図書館行事へ参加してもらうため、学習ニーズに合わせた機会が得られるような内容を検討します。さらに、図書館以外の場でも子どもたちが本に親しむ機会を増やすため、保育所や幼稚園、学校、地域とも連携を図っていきます。

子育て支援部の乳幼児健康相談会場で行っていた「えほんどだっこ」については、実施日が図書館の休館日である月曜日と重なることが多いため、事業の継続について、他の会場での開催や他部局との連携を検討していきます。

- 博物館の専門分野を学ぶ講座では、専門性と親しみやすさの両立が求められるため、より理解しやすくなるよう、内容については、タイトルも含めて講師と協議しながら決定していきます。

社会教育 基本目標 3 地域における学びの循環

【成果目標 3】シニア世代をはじめとした地域の人材を活用し、学習成果を還元する取組を充実させるほか、家庭、地域、学校が連携し、つながりを深めながら学び合える環境を整備する。

I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較	
ボランティアと連携して実施する事業*	公民館事業課	423回	435回	達成	—	
	中央図書館	1,677人	737人	未達成	⬇	
	博物館	4回	1回	未達成	⬇	
公民館事業課 		中央図書館 				
博物館 						
成果指標 2		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較	
事業への参加を通じて新たな人とのつながりができた人の割合		公民館事業課	71.9%	58.5%	未達成	⬇
成果指標 3		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較	
シニア世代の知識や経験を伝える世代間交流の実施回数		公民館事業課	28回	2回	未達成	⬇
成果指標 4		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較	
学校、地域、家庭と連携して実施した事業の参加者数	社会教育課	1,600回	—	未達成	⬇	
	公民館事業課	21,089人	4,845人	未達成	⬇	
社会教育課 		公民館事業課 				

*1 中央図書館は、ボランティアの行事参加者数

*2 R 2, 3は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から利用中止

成果指標 5		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
青少年活動に関する事業への参加者数	公民館事業課	12,902人	3,370人	未達成	◆

青少年教育事業への参加者数(人)

年度	目標目安	実績
H27	12,902	12,902
H28	12,902	12,902
H29	12,902	12,902
H30	12,902	12,902
R元	12,902	12,902
R2	12,902	3,370
R3	12,902	3,370

II 取組の状況

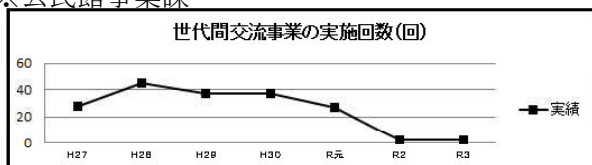
【基本施策 3-1 地域における教育力の向上】

主な取組 3-1-1 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備

1 シニア世代などの知識・技術を生かした活動の場の提供

- ・公民館では、世代間交流事業として、高齢者が専門学校生と保健福祉をテーマにディスカッションによる交流を行い、自らの知識や経験を活用することができる場を提供しました。
- ・クリスタルホールでは、地域で活動する文化団体等の活動成果発表の場として、市民発表コンサート「ウインターコンサート」を無観客で開催し、アマチュア演奏家が活動成果を発表する機会を提供しました。

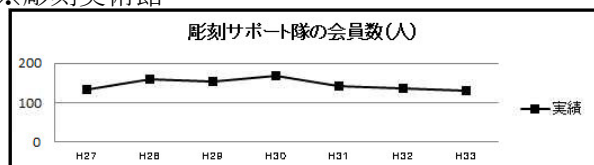
※公民館事業課



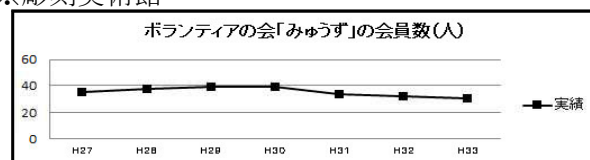
2 学習成果を生かしたボランティア活動の促進

- ・彫刻美術館では、旭川彫刻サポート隊による野外彫刻の定期的な清掃活動やワックス塗付などの維持管理、ボランティアの会「みゅうず」による喫茶コーナー及び美術鑑賞の記念グッズの物販コーナーの運営により、館内外の彫刻作品を鑑賞する市民等に対し、より幅広いサービスを提供することで、魅力ある館の運営と市民サービスの充実が図られました。
また、コロナ禍においてはボランティア活動が難しい状況でしたが、各団体が感染対策を行いながら、活動時期や回数を考え、清掃活動や喫茶コーナーの運営等を実施しました。
- ・公民館では、シニア大学卒業生等の自主組織「シニアの会」による「まちなか講座」の運営協力が継続されました。また、公民館まつりや文化祭では、生涯学習活動団体が活動で制作した作品の展示などにより学習の成果を発表しました。
- ・図書館では、図書館ボランティア登録団体に、活動場所や研修機会の提供、活動成果の発表の支援など、様々な活動を活発に行うことができるよう必要な支援をしています。
- ・科学館では、サイエンスボランティア旭川と協働で事業等を実施するとともに、ボランティアの自主企画・自主開催による催しも行われているほか、テック・ラボでの支援が新たに加わり、科学のおもしろさ、学ぶ楽しさを伝えています。
- ・博物館では、退職校長会旭川支部の有志で構成される博物館ボランティアと連携し、資料の整理や調査を実施したほか、「アイヌ文化に親しむ日」でボランティアが工作を教える体験学習事業等を行いました。

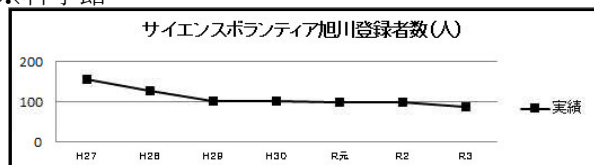
※彫刻美術館



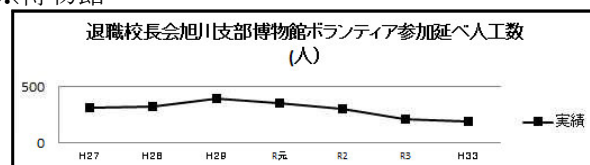
※彫刻美術館



※科学館



※博物館

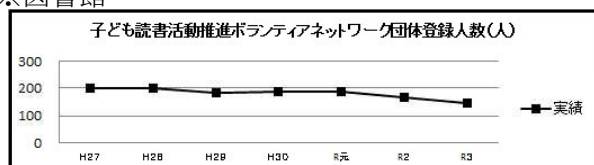


主な取組 3-1-2 地域社会を担う団体や人材の育成支援

1 社会教育関係団体の育成支援

- ・社会教育課では、PTA連合会が行う各種の活動へ補助金を交付したほか、社会教育・文化芸術事業補助金を、家庭教育学級などが行う自主的な学習活動に対し支援できるよう整備しています。また、社会教育団体の活動成果の発表の場として生涯学習フェアを開催し、団体自らが工夫を凝らして制作したポスターを掲示して周知を行うなど、主体的に関わる意識付けを行いました。
- ・公民館では、青少年・成人・高齢者など様々な分野の社会教育関係団体等との共催により、子育てサロン、健康講座、子ども向けの外国語講座等を定期的開設しました。
- ・図書館では、絵本の読み聞かせ活動のためのボランティア養成講座を実施し、子ども読書推進の担い手を育成するとともに、ボランティア相互の連携を促進するため、ボランティアネットワーク会員が自主的に行う研修会に職員を講師として派遣する等の支援を行いました。

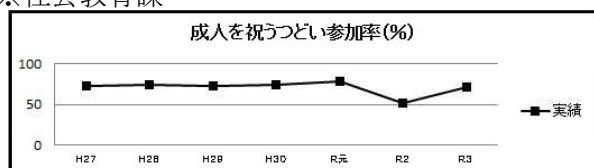
※図書館



2 指導者の育成支援に向けた取組の充実

- ・社会教育課では、新成人たちの門出を祝うとともに、今後社会で力強く生きていくよう激励する場である「成人を祝うつどい」について、新成人を中心とした実行委員会との企画・主催による開催を支援しています。

※社会教育課^{*1}



*1 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、R2実施分をR3年1月9日に、R3実施分をR4年5月4日に実施。

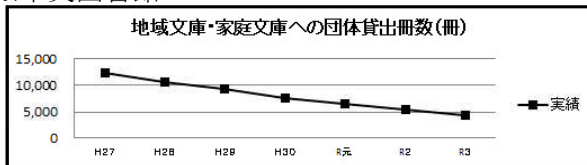
【基本施策3-2 家庭、地域、学校の連携の推進】

主な取組3-2-1 家庭、地域、学校の連携による青少年などの活動を支援する取組の充実

1 地域における青少年の学習活動の充実

- ・社会教育課では、モデル地域における地域学校協働活動として、中学生が子どもの居場所づくりのスタッフとして参加したり、道路の草取りや除雪など地域の担い手として困りごとを解決したりするなど、地域と学校が連携した学習活動をコーディネートしました。
- ・公民館では、地域の学校や保育所、関係団体・機関と連携を図りながら、ものづくりや料理などの創作活動、自然体験、語学学習等、様々な知識や経験を身に付けるための講座を実施しました。
- ・図書館では、地域で活動する地域文庫や家庭文庫を支援するため、図書の団体貸出を実施し、地域や家庭における子どもの読書活動を推進しました。

※中央図書館



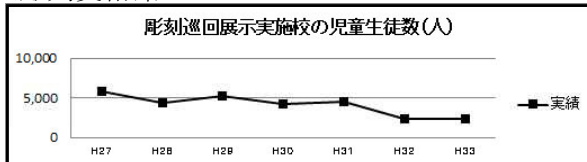
2 子どもたちを中心とした交流による学び合いの場の提供

- ・公民館では、小学生を対象に「夏休み工作教室」でビー玉と型紙を使用してカーリンコンのストーンを作り、小学生同士で競技したり、「虫の学校」ではグループで昆虫採集して標本づくりをしたりするなど、身近なものの工作等によって参加者同士がそれぞれの作品を通じて互いに教え学び合う場の提供を行いました。

3 家庭、地域、学校との連携を更に深める取組の充実

- ・社会教育課では、親や保護者の自主的な学習活動に対し、これを支援する補助金を整備しています。また、効果的な学習活動の方法について助言しました。
さらに、地域学校協働活動として、地域のごみ拾いや除雪、学校行事への支援等を地域と学校が連携して行えるようコーディネートしました。
- ・彫刻美術館では、子どもたちや保護者、地域住民が身近な学校で彫刻を鑑賞することができる彫刻巡回展示を実施しました。また、教育機関等との連携により、児童生徒には彫刻の見方や考え方を広げながら、より親しみを感じてもらおうよう、教員には彫刻の鑑賞の仕方や今後の授業への活用方法などを知ってもらう機会となるよう、彫刻巡回展示の作品を利用した出前授業を実施しました。
- ・公民館では、学校や地域の関係団体と共催・連携・協力し、世代間交流事業や子育てサロン、子ども向け外国語講座等の定期的な開設など、幅広い世代に多様な学習機会を提供することができました。

※彫刻美術館



III 今後の課題と改善に向けた方向性

豊かな経験や知識を持つシニア世代をはじめとした地域の人材を活用し、学習成果を還元する取り組みを充実させるほか、家庭、地域、学校が連携し、つながりを深めながら学び合える環境の整備について、アンケート等によりその成果を確認しながら進めていきます。

<3-1-1 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備>

○ 各施設におけるボランティアについては、参加人数の多くが横ばい又は減少傾向にあることから、各ボランティアの活動を支援するために、その活動内容や特色を多くの市民に知ってもらう取組をさらに行い、活動に参加する市民を増やしていく必要があります。このため、各ボランティアの活動を各講座への参加者や公民館の百寿大学で周知し参加につなげるなど、社会教育部内でも連携を図っていきます。

また、各施設では、ボランティアの活動を単なる施設の運営支援ではなく、ボランティアの知識・経験・学習成果を発揮する場として捉え、取組を進めていきます。

<3-1-2 地域社会を担う団体や人材の育成支援>

○ 社会教育課で行っている生涯学習フェアは、フェアの内容について参加者（出演者）が共に話し合う機会がなかったり、学習成果の発表のみに留まり成果の還元につながっていないなどの課題があるため、参加者自身がフェアの企画や運営に主体的に関わり、学習成果を還元する取組を行うなど、開催内容について更に検討を進めていきます。

また、家庭教育ナビゲーターについては、活動できる場所が減っていることから、活躍できる場を発掘・提供し、自主的な活動につながっていくよう働きかけます。

- 公民館では、幅広い世代に多様な学習機会を提供するため、様々な分野で独自の活動を行う社会教育関係団体との連携を強化し、定期的及び時宜を得た共催事業の展開を図っていきます。
- シニア大学では、卒業後に自主的なまちづくりの活動に結びつくよう、実践の場に関する情報を提供していくとともに、カリキュラムの内容を随時見直し、充実を図ります。
- 図書館では、ボランティアの人材育成やスキルアップのため、養成講座やボランティアのステップアップにつながる学習機会、ボランティア同士の交流の機会を継続的に提供するとともに、ボランティアの学習ニーズに沿った研修内容を検討していきます。

<3-2-1 家庭、地域、学校の連携による青少年などの活動を支援する取組の充実>

- 社会教育課では、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働し、地域全体で子どもの学びや成長を支えていく「地域学校協働活動」について、モデル地域において、地域と学校の組織的・継続的な連携・協働体制を整備するとともに、地域住民の地域や学校の活動に主体的に参画する意識の醸成を図り、学校を核とした地域づくりを進めていきます。
- 彫刻美術館の巡回展示及び出前授業は、参加した学校などから彫刻に親しむ機会につながったなどの意見を得ていることから、彫刻に触れる機会を引き続き提供するため、今後も学校と連携しながら実施していきます。また、多くの学校が巡回展示を活用できるよう、必要な予算等の確保に努めていきます。
- 公民館では、家庭教育に関する団体との連携を強化し、子育てサロン等で家庭教育や青少年教育に関する事業を実施していきます。
- 図書館では、地域文庫や家庭文庫を支援するため、団体貸出の利便性を高めるための制度の見直しを引き続き進めるとともに、制度の周知を図っていきます。

社会教育

基本目標 4 市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実

【成果目標 4】人々が気軽に文化芸術に触れられる取組を進めるとともに、団体等への支援や関連施設を更に活用することにより、文化芸術の振興を図る。

I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
文化芸術に関する事業の入場者数	文化会館	3,161人	1,437人	未達成	◇
	クリスタルホール	3,262人	1,010人	未達成	◇
	公民館事業課	19,940人	1,128人	未達成	◇
	中央図書館	1,693人	388人	未達成	➡
<p>文化会館</p> <p>クリスタルホール</p> <p>公民館事業課</p> <p>中央図書館</p>					
成果指標 2		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
自主文化事業への参加者の満足度	文化会館	94.5%	97.8%	達成	—
	クリスタルホール	86.9%	91.4%	達成	—
<p>文化会館*1</p> <p>クリスタルホール</p>					
成果指標 3		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
文化芸術活動に係る補助金の新規交付団体数	文化振興課	4団体	0団体	未達成	➡

*1 R2は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からアンケート調査未実施

成果指標 4		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
文化芸術活動に係る成果発表の場を活用する団体数 ^{*1}	クリスタルホール	7団体	5団体	未達成	▲

市民発表コンサート「ウィンターコンサート」の出演団体数(団体)

年度	実績	目標目安
H27	7	7
H28	7	7
H29	11	7
H30	10	7
R元	7	7
R2	10	7
R3	5	7

II 取組の状況

【基本施策 4-1 文化芸術活動に関わりを持つ機会の充実と独自性ある取組の充実】

主な取組 4-1-1 文化芸術に親しむ機会の充実

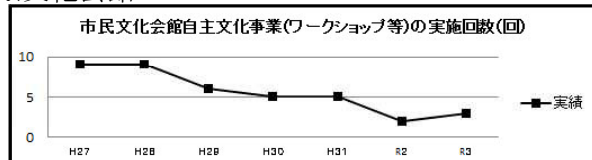
1 文化芸術に接する機会の充実

- ・文学資料館では、市民との協働により各種企画展を実施し、広く地域ゆかりの文学を紹介することで、市民の文学へ接する機会の充実を図ることができました。
- ・彫刻美術館では、本館とステーションギャラリーにおける常設展及び企画展を実施したほか、特にステーションギャラリーでは、織田コレクションや大学生作品展を開催するなど、広く文化芸術の発信拠点として活用を図りました。
- ・文化会館やクリスタルホールの鑑賞型の自主文化事業では、幅広い年齢層の市民に、文化芸術に接する機会を提供しました。来場者アンケートでは高い満足度が示されており、市民の文化芸術に親しむ機会の充実を図ることができました。なお、事業に係る経費のみを観覧者に負担してもらうことで、広く市民に低廉な価格で文化芸術の鑑賞機会を提供しています。
- ・図書館のミニギャラリーでは、市内又は近隣市町村で活躍する様々なジャンルの文化芸術活動団体・個人に発表の機会を提供するとともに、来館者に対して文化芸術に接する機会を提供できました。

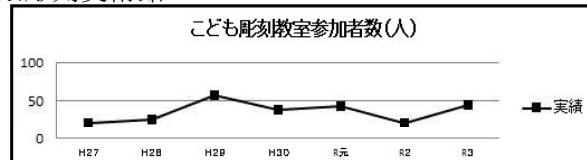
2 文化芸術への関心を高める取組の充実

- ・文化会館やクリスタルホールでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分にとり、バックステージツアーや子ども向け・親子向けコンサートを開催しました。
- ・彫刻美術館では、「こども彫刻教室」や彫刻巡回展示出前授業等を実施し、彫刻についての理解を深め、美術全般への関心を高める機会を提供しました。

※文化会館



※彫刻美術館

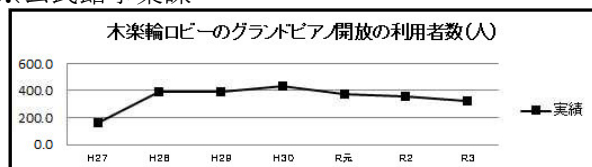


3 関連施設の機能を生かした文化芸術活動の推進

- ・神楽公民館木楽輪では、地元のアマチュア演奏家に発表の機会を提供したほか、グランドピアノの開放事業を継続し、市民の文化芸術活動の場として着実に活動機会の提供とその利活用が図られています。

*1 R元は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

※公民館事業課



主な取組 4-1-2 文化芸術活動への支援

1 文化芸術に関わる団体への支援や人材の育成

- ・社会教育・文化芸術事業補助金では、文化芸術団体が実施するイベントの経費を一部助成しました。
- ・文化会館やクリスタルホールでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施した上でのホール等利用に係る使用料減免を行うなど、活動の支援を行いました。また、公会堂では、高校生が自主的に演劇を開催できるように、舞台機構や音響、照明等を学ぶ講習会を実施しました。
- ・このほか、市民の様々な活動成果の発表の機会として、ウインターコンサート、中央図書館ミニギャラリーを実施し、アマチュア演奏家や芸術家等の市民に活用されました。

2 関係団体等と連携した文化芸術活動の推進

- ・井上靖記念館では、井上靖記念文化財団からの資料提供協力を受け、充実した展示を開催できたほか、文学資料館では、文学資料友の会と協働で旭川ゆかりの文学者・文学作品に関する各種資料の収集・整理を行い、企画展や講座を開催しました。また、文学資料友の会や新聞社、市民団体と連携して、青少年の文学への関心を高めることを目的に、中高生を対象としたエッセーコンクールを実施しました。
- ・彫刻美術館では、市民と協働した旭川彫刻フェスタ実行委員会により、彫刻フェスタ20年間の活動を紹介する動画コンテンツを制作したほか、小中学校への彫刻巡回展示では、教員に向けて鑑賞の仕方や今後の授業への活用方法を知ってもらうなど、彫刻だけでなく美術全般への関心が高まる機会を提供しました。
- ・博物館では、北海道大学アイヌ・先住民研究センターや旭川兵村記念館、川村カ子トアイヌ記念館と連携し、専門分野を学ぶ講座の開催や、学校等団体向けの特別講座を開催しました。また、旭川龍谷高等学校等と連携し、アイヌ史・アイヌ文化に係る共同研究を実施しました。

Ⅲ 今後の課題と改善に向けた方向性

旭川市は、彫刻のまち、文学のまち、音楽のまち等と称されるなど、文化芸術活動が盛んなまちです。都市と自然との調和、市民が行き交う平和通買物公園、家具に代表されるデザイン産業の発達、雪と氷に覆われる厳しい冬などの様々な特徴を生かし、様々な文化イベント等を行っています。彫刻サポート隊、コンサートボランティアなど、文化芸術活動を支えるボランティア活動が盛んなことも特徴のひとつです。こうした旭川市の地域性を生かした文化芸術活動の支援を継続するとともに、ボランティア等との意見交換も行いながら、旭川市らしい文化芸術の振興を図っていきます。

また、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、特に文化・芸術事業については、従来どおりの公演・発表や、日常の練習等の活動を行うことが困難となってきており、中には団体の存続が危ぶまれる状況に至るケースも見られます。こうした中でも市民が文化・芸術に親しむ機会が失われることのないよう、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した活動場所の確保・提供や、文化芸術活動団体への支援策等を検討するなど、必要な対策を進めていきます。

< 4-1-1 文化芸術に親しむ機会の充実 >

- 文化会館の自主文化事業については、収支の改善のために補助制度の活用等も視野に入れ、継続した取組となるよう事業構築を図るとともに、引き続き、市民のニーズを反映した事業の選考

や周知の方法を検討し、多くの市民が優れた舞台芸術に低廉な価格で触れることができる機会を提供していきます。

- クリスタルホールの自主文化事業については、様々な世代の方が幅広い文化芸術に触れる公演を実施する必要があることから、今後もアンケートなどから参加者の学習ニーズを把握し、多くの市民が参加できるよう事業内容を充実させるとともに、チケットについては、収支バランスがとれ、かつ購入しやすい料金を設定します。
- 彫刻美術館の講座やワークショップは、講師の意見を反映しながら工夫を凝らして実施していますが、より多くの市民に参加してもらうため、今後も講師や関係機関と連携しながら、積極的に広報活動を行っていきます。
- 木楽輪での「夢コンサート」は、例年、出演希望者・観覧者ともに多いことから、「夢コンサート」及び「グランドピアノ開放」を継続して実施し、アマチュア演奏家の活動の場と市民が気軽に音楽や文化・芸術に触れることができる環境の充実を図ります。
- 図書館では、ミニギャラリーやキッズルームを多くの市民に活用してもらうため、市の他部局への情報提供や市民団体等への情報発信をしていきます。

< 4-1-2 文化芸術活動への支援 >

- 社会教育・文化芸術事業補助金については、社会教育課と文化振興課が連携し、広報誌やSNSなど様々な方法で制度の周知を強化していくとともに、団体の利用状況等の検証を行いながら運用を進めていきます。
- 文化会館では、減免制度の継続により活動団体の財政的支援を図るとともに、舞台技術講習会等の実施と合わせ、ワークショップなどの学習機会を提供していきます。
- クリスタルホールのコンサートボランティアについては、例年、主催者からの活動要望が多いものの、登録者は高齢化・減少傾向にあるため、活動を広く周知して新規登録者を確保するとともに、今後の活動の在り方やコロナ禍における対策についての検討を進めていきます。
- クリスタルホールの制作型委託公演及び「子ども音楽プロジェクト」については、新型コロナウイルス感染拡大により中止としましたが、市民参加による音楽芸術の発展や地域人材の発掘、市民の企画力や公演技術を高める機会としていくため、引き続き事業周知や集客に努め、地域にゆかりのある演奏家と連携するなど、旭川ならではの事業となるよう取組を進めていきます。
- 旭川彫刻フェスタや彫刻巡回展示出前授業は、今後も関係団体と連携しながら、彫刻を身近なものと感じられる取組を継続的に実施していきます。
- 公民館では、公民館まつり等を運営する生涯学習活動団体の高齢化が進んでいるため、一定の団体に片寄らない取組が必要となっており、学習成果発表の場の充実や団体同士が連携できる機会の提供を継続していきます。
- 図書館のミニギャラリーでの展示について、現在、文化関係団体とは展示場所の提供以外でのつながりが少ないことから、共同企画による展示の実施などで連携していきます。
- 博物館のアイヌ語講座等では、高度な専門性と市民にとっての親しみやすさを両立するため、他の研究機関等との議論を深めながら、市民が理解しやすい内容となるよう工夫を重ねるとともに、より関心を持ってもらえるような広報活動を探求していきます。

社会教育 基本目標 5 郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成

【成果目標 5】アイヌ文化をはじめ地域に根付いた文化、ゆかりの文化財等の魅力を発信しながら、次代へ引き継ぐとともに、郷土愛を育む。

I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
郷土の文化や歴史に関する保存資料数	中央図書館	73,700点	72,321点	未達成	◇
	博物館	2,452点	2,670点	達成	—
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>中央図書館</p> <p>中央図書館郷土資料の所蔵点数(点)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>博物館</p> <p>民族資料整理に伴い出版する目録への掲載点数(点)</p> </div> </div>					
成果指標 2		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
郷土の文化を知る取組への参加者数	彫刻美術館	1,277人	473人	未達成	◀
	博物館	1,610人	745人	未達成	◀
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>彫刻美術館^{*1}</p> <p>彫刻巡回展示出前授業参加児童生徒数(人)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>博物館</p> <p>博物館講座等教育普及事業 (企画展・アイヌ文化関連事業を除く)の参加者数(人)</p> </div> </div>					
成果指標 3		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
アイヌ文化に関する事業への参加者数 ^{*2}	博物館	3,024人	1,359人	未達成	◇
<p>アイヌ文化ふれあいまつり及びアイヌ文化に親しむ日の参加者数(人)</p>					
成果指標 4		目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成状況	R2実績値との比較
アイヌ文化をはじめ地域に根付いた文化に関する講座等への参加者の満足度	博物館	81.1%	87.9%	達成	—
<p>教育普及事業参加者に対するアンケート調査の結果 (満足・まあまあ良いの割合)(%)</p>					

*1 R2は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止したため、R元実績値との比較。
 *2 H29は台風、R2、3は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からアイヌ文化ふれあいまつりが中止となったため、アイヌ文化に親しむ日のみの参加者数

【基本施策5-1 郷土の文化の保存・活用と郷土愛の育成】

主な取組5-1-1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用

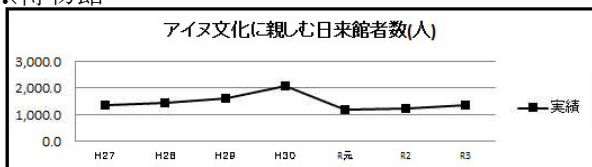
1 文化財等の適切な保存と継承

- ・文化振興課では、伝統芸能の保存・伝承のため旭川郷土芸能保存連合会へ運営費の助成を行いました。
- ・優佳良織については、その技術を伝承し後世へ継承するため、優佳良織技術者の育成活動への助成を行い、2名が伝統的な「織り」と「染め」の技術を習得しました。
- ・旧旭川偕行社については、貴重な重要文化財を保存し後世へ継承するため、彫刻美術館として適正に維持管理を行うとともに、棟札や鬼瓦等を展示し、その魅力について紹介しました。また、その他の文化財についても、適正に維持管理を行い、保存に努めました。

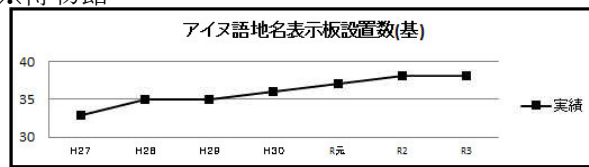
2 貴重な文化財等を活用した郷土の歴史を後世に伝える取組の推進

- ・博物館では、「アイヌ文化に親しむ日」を開催したほか、市内の小学校7校でアイヌ古式舞踊を鑑賞・体験する機会を設けたり、アイヌ古式舞踊を動画で公開したりするなどアイヌ文化の保存と継承に努めました。また、郷土の身近な歴史を伝える取組として、アイヌ語地名表示板の製作に取り組みました。
- ・図書館では、郷土資料を活用した企画展示を実施しました。

※博物館



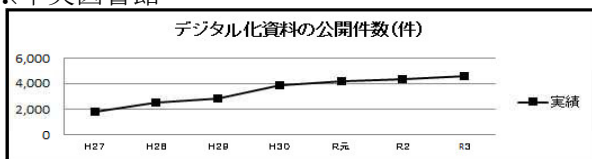
※博物館



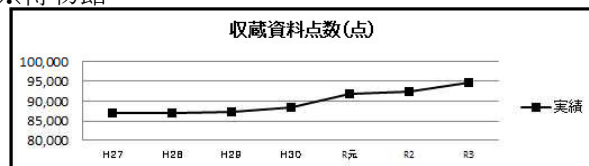
3 歴史的資料の収集・保存と整理

- ・図書館や博物館では、旭川地域や上川地方に関連する歴史・文化に関する資料の収集・整理・保存を進めています。特に、図書館所蔵写真資料については、長期に保存できるよう体系的に整理し、デジタル化を進めています。

※中央図書館



※博物館



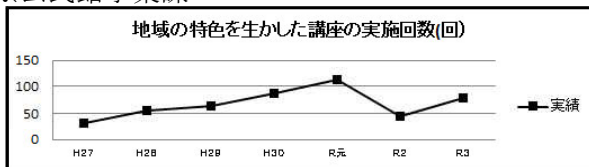
主な取組5-1-2 郷土愛を育むための取組の推進

1 郷土の文化に接する機会や、郷土を再発見し愛着や誇りを高める取組の充実

- ・社会教育課では、ジオパーク構想推進事業の一環として、神居古潭や忠和のアイヌ伝説が残る地域を案内するツアー、講座の開催など地域の自然や地形、文化の学びを通して、郷土の魅力を伝える取組を行いました。
- ・公民館では、地域資源を生かし、環境や文化、歴史等の講座の実施などを通じ、地域への愛着や関心を高める取組を進めています。
- ・彫刻美術館では、所蔵する彫刻作品を身近に鑑賞できる彫刻巡回展示を市内小中学校等で実施したほか、市民を対象に彫刻に親しむ機会として旭川彫刻散歩を実施したことなどにより、「彫刻のまち旭川」に対する意識の高揚を図りました。
- ・公民館や図書館、博物館、井上靖記念館では、収集した郷土の資料を活用した企画展の実施や、

郷土学習の支援等の活動を通じて、郷土の歴史や文化に接する機会を提供し、その魅力を再発見する取組を進めています。また、川村カ子トアイヌ記念館の展示施設のリニューアルへの支援を行いました。

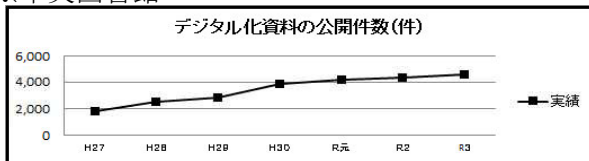
※公民館事業課



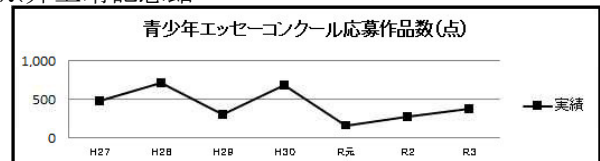
2 郷土の文化に関する情報発信の充実と理解の促進

- ・井上靖記念館では、中学生・高校生を対象とした青少年エッセーコンクールを開催し、井上靖の偉業を顕彰するとともに、青少年の文学への関心や資質を高める一助となりました。
- ・文化振興課では、旭川市教育委員会が所蔵する旭川市文化賞受賞者の絵画を旭川市ホームページで公開しています。
- ・図書館では、郷土資料を長期に保存・活用するためのデジタル化を進めており、北海道立図書館のデジタルアーカイブ公開システムと連携しながら、デジタル化した資料のインターネット公開やSNSでの情報発信を進め、市民の利便性の向上を目指しています。
- ・博物館では、アイヌ文化に関連する各種事業の実施や、旭川駅構内のアイヌ文化情報コーナー「ル・シロシ」の運営を通じ、アイヌ文化への理解を深める取組を進めました。また、例年食ベマルシェ期間に併せて実施している「アイヌ文化ふれあいまつり」については、イベントが中止となったことから、博物館でアイヌの伝統工芸品を展示したり、アイヌ古式舞踊の動画をインターネットで公開したりしました。

※中央図書館



※井上靖記念館



III 今後の課題と改善に向けた方向性

市民が郷土に愛着を持てるよう、アイヌ文化をはじめ地域に根付いた文化や、ゆかりの文化財等の魅力を発信するとともに、その成果を測る手法について検討していきます。

<5-1-1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用>

- 都市開発の進展等により消滅の危機に晒されている歴史的建造物の保存や、後継者不足である郷土芸能等の伝承については、容易に解決できるものではありませんが、市民に文化財に関する理解を深めてもらい、保存・継承を進めていくため、広く紹介・活用する機会を増やしていきます。特に優佳良織については、本市を代表する貴重な工芸品であり、その技術が継承されるよう、積極的な支援を行っていきます。
- 彫刻美術館については、文化庁からの助言・指導も求めながら重要文化財建造物としての適切な維持管理に努めるとともに、その魅力を発信するため、SNSを活用するほか、市が保有する資産を活用した教育旅行の誘致に関わるよう民間の旅行会社との連携・協議を進めます。
- 図書館が所蔵する写真資料のデジタル化は、人的・経費的な負担も大きいですが、郷土の歴史を保存する重要な取組であることから、継続して取り組むとともに、こうした郷土資料を利用して郷土愛を育む企画展示など、その活用方法と情報発信についても検討します。
- アイヌ文化の教育・普及については、**効果的な事業の促進を図るため**、他の集客力のあるイベントと併せて開催し、また、アイヌ語地名表示板については、設置候補地が限られてきているため、これまでの検証結果を踏まえ、今後の設置方針等について検討していきます。
- 本市には、アイヌの人々のかつての暮らしを今なお感じさせる神居古潭や嵐山、貴重な民族資

料を有する博物館や川村カ子トアイヌ記念館等があり、川村カ子トアイヌ記念館は展示施設のリニューアルに向けて、新館の基本・実施設計書が完成しました。北海道北部のアイヌ文化を積極的にアピールしていくため、これらの地域資源の一層の充実を図るとともに、「アイヌ文化を生かすまちづくり」による魅力と活力ある地域社会の形成を目指し、アイヌ文化を活用した産業や観光の振興に取り組んでいきます。

< 5-1-2 郷土愛を育むための取組の推進 >

- ジオパーク構想関連事業において、ツアーや講座で講師を務められる者が限られており、活動が活発に行えていないことから、ガイド育成を目的としたツアーや講座にも取り組んでいきます。
- 井上靖記念館で実施している青少年エッセーコンクールは、テーマ設定により応募数が大きく増減することから、今後はより身近で親しみやすいテーマを基本に設定し、より効果的な広報を行うことで応募数の増加を図ります。
- 彫刻の巡回展示や旭川彫刻散歩については、今後も周知を図りながら、彫刻のまちづくりに対する市民の意識の向上につながる継続的な事業を展開していきます。
- 公民館では、地域の魅力を再確認することが、改めて地域への愛着を育む機会となっていることから、新しい題材や講師を発掘し、参加者のニーズの把握に努めながら、地域の特性を生かした事業を継続して実施していきます。
- 図書館では、SNSをはじめ様々な媒体を活用し、郷土資料の情報発信を充実させていきます。
- 博物館では、アイヌ文化の保存・伝承に係る各種事業が定着してきていることから、**さらなる情報発信のため**、アイヌ文化情報コーナー「ル・シロシ」の運営と合わせて、引き続き、SNS等を活用した効果的な情報発信を進めていきます。